

安曇野市環境基本計画

～みんなで安曇野の環境を考えよう～

平成 29 年度 年次報告書

平成 30 年 3 月

安 曇 野 市

- 目次 -

1 平成 29 年度の取り組みの概要.....	3
2 平成 29 年度の取り組み結果.....	5
2.1 環境基本計画推進会議.....	5
2.1.1 会議の開催状況.....	5
2.1.2 「市全体のテーマ」について.....	7
2.2 安曇野環境市民ネットワーク.....	8
2.2.1 概要と事業内容.....	8
2.2.2 平成 29 年度事業内容.....	9
2.3 環境基本計画庁内調整会議.....	10
2.4 環境審議会.....	11
2.5 安曇野環境フェア 2017.....	12
2.5.1 開催のねらい.....	12
2.5.2 開催概要.....	12
3 行動計画実施結果.....	14
3.1 行動計画について.....	14
3.2 重点プロジェクトの一覧.....	14
3.3 各重点プロジェクトの結果.....	16
4 参考資料.....	72
4.1 参考資料 1：環境基本計画の推進体制と進行管理.....	72
4.2 参考資料 2：安曇野市環境基本計画推進会議委員 名簿.....	75
4.3 参考資料 3：写真アルバム 安曇野環境フェア 2017.....	76
4.4 参考資料 4：安曇野環境フェア 2017 出展団体一覧.....	77
4.5 参考資料 5：安曇野環境市民ネットワーク 活動アンケート結果.....	78

■ はじめに

安曇野市環境基本計画は、市の環境づくりの最も基本的な方向性を示すものとして、平成20年3月に策定されました。その骨子は、「共存・共生」、「安全・安心」、「循環型社会」、「参加と協働」の4つを柱とする環境への取り組みです。本年、平成29年度は10年目に当たり、その目標年度となる節目の年になります。

本報告書は、環境基本計画の推進状況の点検、評価を担ってきた安曇野市環境基本計画推進会議が協議を重ね、この一年間の取り組みをまとめて市民・事業者の皆様と共有するとともに、その評価や反省点を今後に活かしていくために作成したものです。

本報告書を通じて市民・事業者の皆様により市の環境への取り組みをご理解いただき、更なる環境の保全、回復、創造に関する活動の推進につなげていただければ幸いです。

本年、市では新たな10年の環境施策の指針となる第2次安曇野市環境基本計画を策定しました。その中においても「参加と協働」は4つの基本目標の一つに掲げられ、更なる協働の推進が期待されています。

市の望ましい環境像を実現するためには、市民・事業者・行政が対話を繰り返し、互いに協力しあいながら環境施策を推進していくことが何より大切です。今後とも、環境への取り組みに皆様の深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成30年3月

安曇野市環境基本計画推進会議
会長 植松 晃岳

1 平成 29 年度の取り組みの概要

安曇野市のより良い環境づくりを目的として平成 20 年 3 月に策定した「安曇野市環境基本計画」（以下「基本計画」という。）の実現に向け、具体的な行動の指針である「第 2 次環境行動計画」（以下「第 2 次行動計画」という。）が策定されて 4 年目となる平成 29 年度は、第 2 次行動計画で定められた二つの重点プロジェクト「環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）」と、「計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）」に従って、活動を展開しました。

「環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）」では、主体となる市民・事業者・行政が具体的に何をすればよいのか分かる形で環境に関する行動のプログラム化を行い、全市的に展開していくことを目指しました。また、「計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）」では、他計画の方針に沿った取り組みについて安曇野市環境基本計画推進会議で進行管理を行い、推進と実践を進めました。

重点プロジェクトの区分

環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）

●ねらい

- ・取り組みが必要な活動について、市民・事業者・行政が何をすればよいのか分かるようプログラム化し、具体的に進めていきます。
- ・達成度が分かるよう数値目標を設定し、進行を管理します。

●網羅する範囲

- ・第 1 次行動計画では取り組みが十分ではなかった活動
- ・他計画では網羅しきれていない活動

計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）

●ねらい

- ・庁内調整会議など関係部署と連携しながら、進行を管理します。
- ・年度内に 2 回程度の頻度で、関係部署の担当者から進捗状況について報告を受け、工程が遅れたり見直しが必要と判断される項目については、取り組みの改善を要望します。

●網羅する範囲

- ・他計画などで推進されている活動

また、第 10 回目の開催となる「安曇野環境フェア 2017」では、2 日間で約 1,700 人の来場者を記録し、盛況な結果となりました。

表 1 に、平成 29 年度における取り組みの概要を示します。

表 1 平成 29 年度の取り組みの概要

区分	名称	内容
推進体制	安曇野市 環境基本計画 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画推進会議の開催（計 9 回） ・実施計画の策定、進捗状況の確認および評価、 年次報告書の作成 ・第 2 次安曇野市環境基本計画の策定 ・安曇野市環境行動計画（第 3 次）の策定
	安曇野環境市民 ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野環境フェア 2017 について 安曇野市、安曇野環境フェア実行委員会と共催
	環境基本計画 庁内調整会議	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の取り組みに関する確認 平成 29 年度 環境基本計画年次報告書 平成 30 年度 環境基本計画実施計画書 第 2 次安曇野市環境基本計画の策定
	環境審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境審議会の開催（計 6 回） ・平成 28 年度 環境基本計画年次報告書の承認 ・第 2 次安曇野市環境基本計画の策定
イベント	安曇野環境 フェア 2017	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年 10 月 7 日、8 日の 2 日間にわたり開催 出展団体数 62 団体 来場者数 約 1,700 人

2 平成 29 年度の取り組み結果

2.1 環境基本計画推進会議

2.1.1 会議の開催状況

環境基本計画を推進する主体である「安曇野市環境基本計画推進会議」（以下「基本計画推進会議」という。）は、市民・事業者・行政の取り組みの施策・事業における提案、計画推進のための啓発活動や支援、進捗状況の点検・評価と年次報告書の作成を主な目的としています。委員は、事業団体の推薦を受けた者、環境保全活動団体の推薦を受けた者、公募により選考された市民、市長が必要と認めた者（環境基本計画策定委員経験者 など）からなる 14 人で構成されています。

平成 29 年度は、第 2 次行動計画で定められた重点プロジェクトを推進するための実施計画の作成や実施状況の把握、評価並びに第 2 次安曇野市環境基本計画の策定などについて、9 回の環境基本計画推進会議を開催し、ワーキンググループ（以下「WG」という。）や全体会議で協議を重ねました。

WG の編成を表 2 に、推進会議などの経過を表 3 に示し、重点プロジェクトの実施状況については「3-3. 各重点プロジェクトの結果」にまとめました。

表 2 ワーキンググループ（WG）の編成

WG 名	対象の重点プロジェクト
自然	②安曇野にふさわしい生態系を守る ④森づくりを推進する ⑤耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る ⑥地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
景観・まちづくり	③身近な水辺を育み地域の歴史と文化を大切にする ⑦豊かな地下水を保全する ⑧臭気規制を導入する
資源・エネルギー	①緑化と省エネを主体とした CO ₂ 削減に取り組む ⑨ごみを減らそう ⑩環境マネジメントシステムを導入する ⑪自然エネルギー導入を進める

表3 安曇野市環境基本計画推進会議の経過

日 時	会議名称	内 容
平成 29 年 4 月 25 日	第 8 回 推進会議	(1) 平成 28 年度年次報告書について (2) 平成 29 年度実施計画書について (3) 平成 29 年度「年次テーマ」について (4) 平成 29 年度年間スケジュールについて (5) 第 2 次安曇野市環境基本計画基本施策について ほか
5 月 30 日	第 9 回 推進会議	(1) 委員委嘱について (2) 第 2 次安曇野市環境基本計画の具体的施策、 指標・目標値について ほか
7 月 11 日	第 10 回 推進会議	(1) 第 2 次安曇野市環境基本計画 第 4 章 望ましい環境をつくるための取り組み、 第 5 章 計画の推進体制と進行管理について ほか
8 月 29 日	第 11 回 推進会議	(1) 第 2 次安曇野市環境基本計画 骨子案の確認、 数値目標（案）、重点取組（案）について (2) 安曇野環境フェア 2017 について ほか
10 月 20 日	第 12 回 推進会議	(1) 第 2 次安曇野市環境基本計画の素案について (2) 平成 29 年度中間報告（環境行動プロジェクト）について
11 月 14 日	第 13 回 推進会議	(1) 平成 29 年度中間報告（計画推進プロジェクト）について (2) 第 2 次安曇野市環境基本計画（案）について (3) 第 3 次安曇野市環境行動計画の重点取組の選定について ほか
平成 30 年 1 月 16 日	第 14 回 推進会議	(1) パブリックコメントの実施結果について (2) 第 2 次安曇野市環境基本計画（案）について (3) 第 3 次安曇野市環境行動計画について (4) 平成 29 年度年次報告（環境行動プロジェクト）の評価について
3 月 13 日	第 15 回 推進会議	(1) 第 2 次安曇野市環境基本計画概要版について (2) 安曇野市環境行動計画について
3 月 20 日	第 16 回 推進会議	(1) 平成 29 年度年次報告（計画推進プロジェクト）の評価について

2.1.2 「市全体のテーマ」について

「市全体のテーマ」とは、安曇野市の環境をより良くするために、市民・事業者・行政が積極的に取り組む共通テーマであり、共通の目標に向かって各主体が取り組むことにより、目に見える形で成果が上がることを期待しています。「市全体のテーマ」を現在進行中の重点プロジェクトとリンクさせるとともに、安曇野環境フェアや各種生涯学習講座との連携をはかって目に触れる機会を増やすことにより、市民など様々な人々の関心を高め、取り組みへの機運が高まることを目的としています。

「市全体のテーマ」は、以下の2つです。

年次テーマ 『安曇野の環境を知り、育み、伝える』 ～参加することから一歩踏み出そう～

【選定の理由】

- ・これまで「知り、育み、伝える」というテーマで進めてきた安曇野の環境について、これからはみんなが考え、自分のできることから取り組める行動につなげていくことが大切です。さらにそれらの行動への参加が大きな環境への取り組みを起こすきっかけになれば素晴らしいことです。
- ・市民一人ひとりの行動や意識を高め、自覚と責任ある行動の浸透を目指し、確実に次の一歩を進める。参加からもう一歩進んだ取り組みに踏み出しましょう！

長期テーマ 『地球温暖化防止にみんなで取り組む』 (設定期間：H20～H29)

【選定の理由】

- ・地球温暖化による気温の上昇はすでに実感することができるようになってきており、地球温暖化防止は地球全体で取り組むべき課題と言えます。
- ・地球温暖化は地球規模の環境問題ですが、防止のためには日々の暮らしや営みの中で地道に取り組む必要があることから、環境基本計画の期間を通じた共通のテーマとして、継続的に取り組みます。

【関連する重点プロジェクト】

- ①緑化と省エネを主体としたCO₂削減に取り組む
- ④森づくりを推進する
- ⑩環境マネジメントシステムを導入する
- ⑪自然エネルギー導入を進める

2.2 安曇野環境市民ネットワーク

2.2.1 概要と事業内容

「安曇野環境市民ネットワーク」は、市内全域または各地域において環境保全のための活動を行っている各種団体のとりまとめ、および連絡・調整を行うことを目的として平成21年9月に発足しました。

事業内容は、大きく分けて①コミュニケーション、②環境学習の企画と実施、③環境基本計画および行動計画の実施、④普及啓発の4つです。

平成29年度は、総会、運営委員会を各1回開催し、ネットワーク参加団体の情報発信および交流を深めることを目的とした談話会「環カフェ」を4回、明科中学校環境講座を9回開催しました。

これらの会議以外にも、昨年度より引き続き、ネットワーク参加団体の会員を中心に安曇野環境フェア実行委員会が組織され、安曇野環境フェアの共催・運営を行いました。

表4 安曇野環境市民ネットワークの事業内容

区 分	内 容
①コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none">・ ネットワーク参加団体および個人に関する情報の提供と公開・ 参加者同士のコミュニケーション・ 交流会などの企画
②環境学習の企画と実施	<ul style="list-style-type: none">・ 環境学習プログラムの企画と実施・ 環境学習におけるリーダーなど、地域に貢献できる人材の育成・ ネットワークのつながりを活用した環境学習の企画と実施
③環境基本計画および行動計画の実施	<ul style="list-style-type: none">・ 環境基本計画、環境行動計画の推進への協力・ 環境保全上の課題への対応
④普及啓発	<ul style="list-style-type: none">・ インターネット上での情報公開・ 活動拠点における情報提供・ 各種環境イベントの企画と運営、参加と協力

2.2.2 平成 29 年度事業内容

表 5 安曇野環境市民ネットワークの事業内容

日 時	企画名称	内 容
平成 29 年 6 月 3 日	第 1 回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「緑のカーテン講座」 ①緑のカーテンと夏の省エネについて ～クールチョイス！節エネガイド～ 安曇野地球温暖化協議会 樋口 嘉一 氏 ②緑のカーテンとゴーヤの育て方 ～実の収穫も楽しめる、ゴーヤの育て方のコツを学ぶ～ NPO 法人 あづみ野風土舎
10 月 7 日	第 2 回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「ロマンを求めて潮沢」 ～明科潮沢の“いいところ”をご紹介～ 歩いて楽しいプロジェクト 潮沢ロマンの会
11 月 11 日	第 3 回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「星空観察会～秋の星座と惑星たち～」 天平の森天文同好会
平成 30 年 2 月 22 日	運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度総会について
3 月 23 日	第 4 回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「組織を元気にする人とお金」 認定特定非営利活動法人 長野県みらい基金
3 月 23 日	総会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度事業報告および収支決算 ・平成 30 年度事業計画および収支予算 ・規約の一部改正 ・役員改選

表 6 明科中学校の総合的な学習の時間

日 時	内 容
平成 29 年 5 月 29 日	開講式（安曇野環境市民ネットワーク座長）
6 月 5 日	河原での植物観察（安曇野緑の会）
6 月 19 日	長峰山での自然観察（NPO 法人 森倶楽部 2 1）
6 月 26 日	押野山での昆虫と植物観察（三郷昆虫クラブ）
7 月 3 日	マイ箸づくり体験（マイ箸づくりサポートボランティア） 箸入れ、箸袋づくり体験（安曇野市消費者の会）
9 月 4 日	地球温暖化の最新情報～未来の地球と私たちの暮らし～（安曇野地球温暖化協議会）
9 月 11 日	安曇野の里山景観と木材利用（安曇野建築三会）
9 月 25 日	生き物の観察と環境問題の見方（アルプスあづみの公園管理センター）
10 月 16 日	閉講式（安曇野環境市民ネットワーク座長）

2.3 環境基本計画庁内調整会議

「環境基本計画庁内調整会議」は、庁内の担当課を明確化した上で、関連する施策の連携を強化し、環境に関する施策・事業を効果的に推進すること、庁内の連絡調整を行うことおよび市地球温暖化防止実行計画などの策定・推進・評価などを行うことを目的として設置しました。

表7 環境基本計画庁内調整会議の経過

日付	会議名称	内容
平成29年 5月10日	担当者部会	(1) 第2次安曇野市環境基本計画の策定について 環境の現状の検討について 基本目標など取組体系・取組内容について 数値目標について
6月27日	担当者部会	(1) 第2次安曇野市環境基本計画の策定について 計画の作成状況 個別目標・基本施策・望ましい環境をつくる取組の確認 ①各所管計画との整合 ②各課の重点取組 数値目標 推進体制、進行管理、評価方法 (2) その他
7月18日	部長会議	(1) 安曇野市環境基本計画平成28年度年次報告書について (2) 安曇野市環境基本計画平成29年度実施計画書について (3) 平成28年度地球温暖化防止実行計画に係る取り組み結果について
8月8日	担当者部会	(1) 第2次安曇野市環境基本計画の策定について 計画の作成状況 推進体制、進行管理、評価方法 数値目標（案） 重点取組（案） 素案の確認 (2) その他
10月17日	幹事会	(1) 第2次安曇野市環境基本計画の素案について (2) 内容の修正について
11月15日	部長会議	(1) 第2次安曇野市環境基本計画のパブリックコメントについて
平成30年 2月5日	政策会議	(1) 第2次安曇野市環境基本計画の策定について
2月15日	部長会議	(1) 第2次安曇野市環境基本計画の策定について（報告）

2.4 環境審議会

「環境審議会」とは、安曇野市環境基本条例に基づき設置されるもので、環境基本計画に関することや環境保全に関する基本的事項を調査・審議するための、学識経験者中心の諮問機関です。

環境問題に対し、市長の諮問に応じ答申することのほか、環境基本計画の進捗状況を管理する「環境基本計画年次報告書」の承認などを行っています。

表8 環境審議会の経過

日付	会議名称	内容
平成29年 4月24日	第1回 環境審議会	(1) 三郷地区畜産臭気対策について (2) 平成29年度一般廃棄物処理実施計画について (3) 廃棄物の処理及び清掃に関する条例の全部改正について
5月18日	第2回 環境審議会	(1) 新ごみ処理施設整備基本計画について (2) 安曇野市環境基本計画年次報告書について (3) 第2次安曇野市環境基本計画の策定について
8月31日	第3回 環境審議会	【諮問】 (1) 第2次安曇野市環境基本計画（骨子案）について
10月31日	第4回 環境審議会	(1) 第2次安曇野市環境基本計画（素案）について (2) 安曇野市環境基本条例の一部改正について
11月28日	第5回 環境審議会	(1) 第2次安曇野市環境基本計画【案】について (2) 安曇野市災害廃棄物処理計画の策定について
平成30年 1月25日	第6回 環境審議会	(1) 第2次安曇野市環境基本計画【案】について (2) 三郷地域畜産悪臭対策について (3) 資源物・ごみ分別アプリについて
1月26日	-	【答申】 (1) 第2次安曇野市環境基本計画について
3月22日	第7回 環境審議会	(1) 第2次安曇野市環境基本計画について (2) 安曇野市環境行動計画について (3) 安曇野市生きもの調査について (4) 安曇野市空家等対策計画について

2.5 安曇野環境フェア 2017

2.5.1 開催のねらい

「安曇野環境フェア」は、環境基本計画に基づく取り組みの一環として、10回目の開催となりました。

安曇野環境フェアでは、環境基本計画で定められた取り組みを広く紹介するとともに、出展者と来場者の交流を深め、参加していなかった人も巻き込みながら参加者同士がお互いの顔を見えるようにし、つながりの環を広げていくことを目指しました。

開催目的は、以下の3点です。

- ① 環境に関する課題を市民が共有できる場を提供する。
- ② 出展者と来場者の交流を深め、これまで参加していなかった人を巻き込む。
- ③ 参加者同士がお互いの顔を見えるようにし、つながりの環を広げる。

2.5.2 開催概要

【基本コンセプト】 安曇野の環境を知り、育み、伝える

～参加することから一歩踏み出そう～ \いち、にの、さんっ！／

【テーマ】 安曇野の蛇口の水はなぜうまい？

【主催】 安曇野市、安曇野環境フェア 2017 実行委員会

【共催】 安曇野環境市民ネットワーク

【日時】 平成 29 年 10 月 7 日（土） 午前 9 時 30 分～午後 4 時
8 日（日） 午前 9 時～午後 4 時

【会場】 安曇野市堀金総合体育館（安曇野市堀金烏川 2662）

【開催内容】

- パネル展示と体験コーナー（7日～8日）
 - ・市民団体、企業などによる展示：計 62 団体・個人
- 企画展「鈴木まもる 世界の鳥の巣と原画展」（7日～8日）
 - ・世界中から集めた珍しい鳥の巣の展示（7日～8日）
 - ・ギャラリートーク ～鳥の巣が教えてくれること～（8日）
（講師：絵本作家兼鳥の巣研究家 鈴木 まもる 氏）
- 水環境基本計画関連企画（7日）
 - ・地下水講座 ～地下水のしくみを知ろう～
（講師：信州大学 教授 中屋 眞司 氏、八千代エンジニアリング 課長 山本 晃 氏
大阪府立大学 准教授 遠藤 崇浩 氏、アグスイア水教育研究所 所長 橋本 淳司 氏）
 - ・世界が体験！子どものための“水”おもしろプログラム
（講師：アグスイア水教育研究所 所長 橋本 淳司 氏）
（講師：温泉入浴指導員 石川 泰弘 氏）
（協力：株式会社 バスクリン）
- 水の講座「水道水ができるまで」（8日）
 - ・水道水の仕組み解説、市内 5 地域の水の飲み比べ

- ロマンを求めて潮沢（7日）
 - ・明科潮沢の“いいところ”をご紹介
（潮沢ロマンの会）
- 環境活動発表会（7日～8日）
 - （一般の部）株式会社 角藤 環境ソリューション室、第36回全国都市緑化フェア実行委員会、
安曇野地球温暖化協議会（7日）
 - （学校の部）明科中学校・豊科高等学校・南安曇農業高等学校・エクセラン高等学校（8日）
- リサイクル自転車の展示・頒布（7日）
 - ・豊科リサイクルセンターで修理・再生された自転車の展示・頒布（抽選）
- 自然のシルエットを楽しもう！～切り紙で作品づくり～（7日～8日）
 - ・メインアリーナにて、自然のシルエットを切り紙で再現
（講師：豊科郷土博物館 松田 貴子 氏）
- 触れる地球の展示（7日～8日）
 - ・直径 1.28 メートルの地球儀にリアルタイムに生きた地球の様子を映し出す
（講師：長野県地球温暖化防止活動推進員 宮澤 信 氏）
- 「緑のカーテン」写真展（7日～8日）
 - ・市内の住宅、事業所などに設置された「緑のカーテン」の写真展
- ホーポーズ・パペットシアター人形劇（7日～8日）
 - ・演目：おだんごころころ（7日）、ねむりひめ（8日）
- 積木で楽しく遊ぼう!!積木ワークショップ
 - ・松枯れ材を利用した2万個の積木で遊びながら里山のことを学ぶ
（協力：長野県建築士会安曇野支部、さとふる。安曇野材利用促進プロジェクト）

【同時開催】

- ジャイアン村上おもしろサイエンスショー（8日）
 - ・米村でんじろうさんがプロデュースしたショー
「面白い科学」、「学べる科学」を通じて科学の魅力を発信
（出演：ジャイアン村上）
- 屋敷林見学会（8日）
 - ・ガイドの説明による会場周辺の屋敷林の見学
（主催：屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト）
- 作品展示・表彰式（8日）
 - ・三角島スケッチコンテスト
（主催：三角島ふるさとの森プロジェクト）

【来場者数】

10月7日（土）約 1,100 人

8日（日）約 600 人

2日間の合計 約 1,700 人

3 行動計画実施結果

3.1 行動計画について

「安曇野市環境行動計画」は基本計画に盛り込まれた種々の取り組みのうち、特に重点的・優先的に行う必要のある項目をまとめたものです。

第2次行動計画では、平成20年度から平成29年度を計画期間とする基本計画の後半にあたる平成26年度から平成30年度までに、市民・事業者・行政の各主体が行うべき項目を可能な限り具体的に取り上げています。本報告書は、この行動計画に基づいてこの一年間に実施した取り組みをまとめ、その評価や反省点を今後に生かしていくために作成したものです。

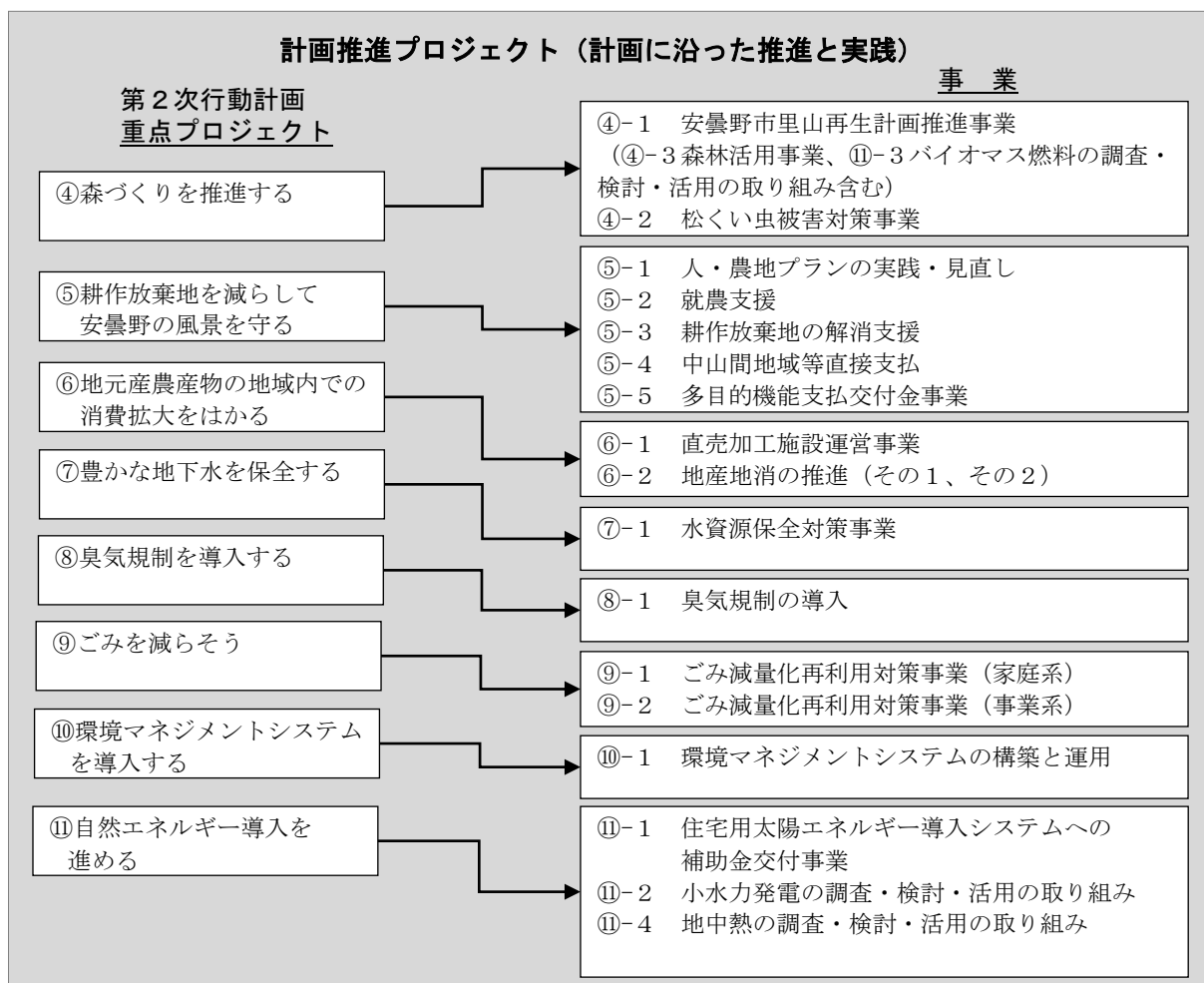
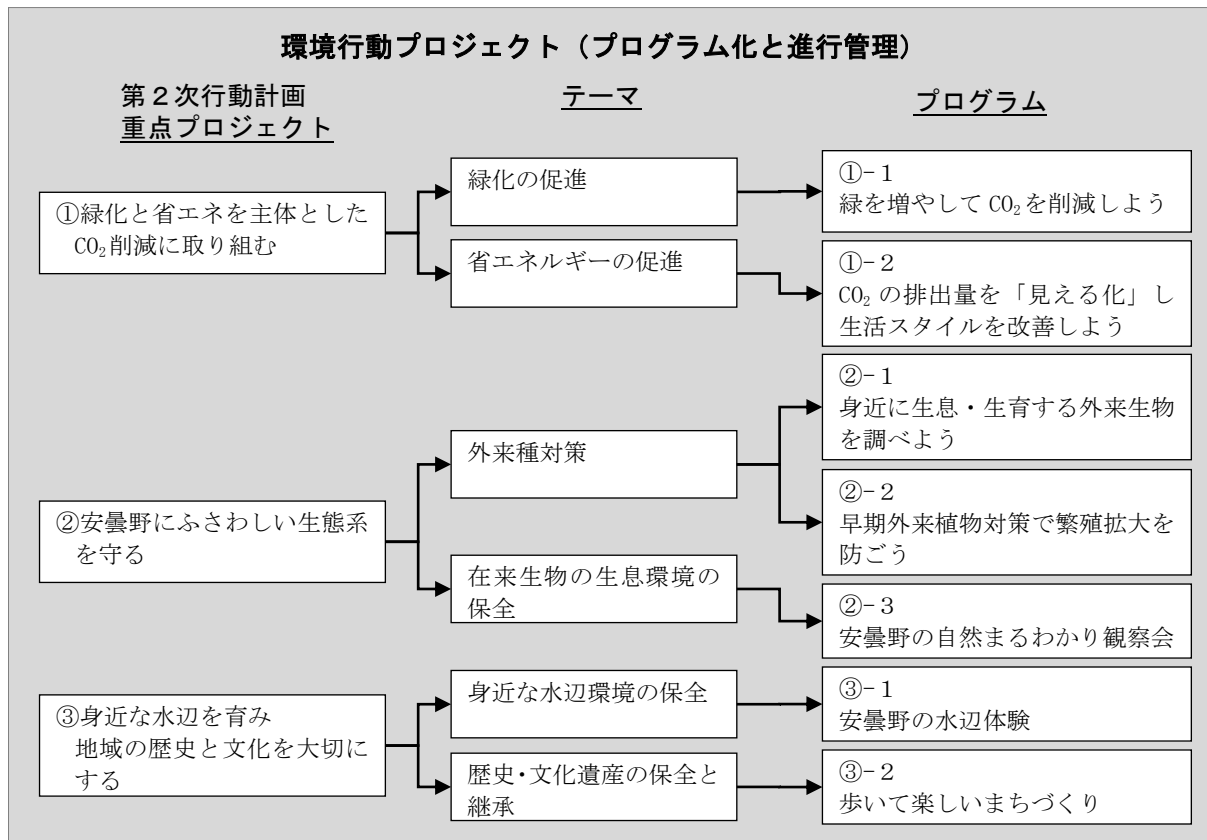
なお、平成30年3月の第2次安曇野市環境基本計画の策定に伴い、上位計画と計画期間や取り組み内容の整合を図って関連をより明確にし、基本計画・行動計画が一体となって環境の保全と創造のための施策を推進するため、第3次となる行動計画を策定しました。

平成30年度からの5年間は、この新たな行動計画に基づき、各種施策を展開します。

3.2 重点プロジェクトの一覧

第2次行動計画で定められた「環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）」と、「計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）」の2つのプロジェクトに区分し、進行管理を行い、推進と実践を進めました。

■ 重点プロジェクト別実施プログラム・事業一覧



3.3 各重点プロジェクトの結果

以下、重点プロジェクトごとに平成 29 年度の取り組みの結果を示します。

～ 重点プロジェクト別 点検評価書の見方－1 ～

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書（ 中間時 / 年度末時 ）

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	①：緑化と省エネを主体とした CO ₂ 削減に取り組む
事業名	①-1 緑を増やして CO ₂ を削減しよう
目的	・生活環境における緑化が、エネルギーの消費を低減し CO ₂ 削減につながる効果について学び、緑化への取り組みを推進し、温暖化防止をはかる。
目標	・講座参加家庭における実施率を 65%とする
担当課・係	環境課 環境政策係

第 2 次行動計画で策定した基本事項です。

個別プロジェクトに対する難易度と目標達成度で業績評価を求めます。

個別プロジェクト取り組み状況に対する評価を求めます。

個別プロジェクトと環境行動計画（5 年計画）との進捗状況の確認。

■本年度の実績評価

業績評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	L2-C	
	60	○効果的だった取り組みや項目 ・市の管理施設での取り組みの実施 継続的に庁内インフォメールにより募集をかけたことにより、今年度は認定こども園での取り組みが増え、取組施設数、苗の配布数、共に増加となる結果となった。 ○不十分だった取り組みや項目、その要因 ・「緑のカーテン」講座の実施 今年度は本庁舎ではなく、三郷公民館での開催であったためか、参加者が昨年度と比べ半分以下となった。 ・「緑のカーテン」写真展への参加 講座参加者が減少したためか、応募件数が前年度より少なかった。
取組評価 (Check)	A	
進捗状況 (Check)	○	

※進捗状況⇒予定どおり……○、遅れている……×

※平成 29 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	5	1	1			7
点数	500	80	60			640
					取組評価点数	91

※取組評価点数＝個別目標評価点合計／目標数（評価項目数）

※取組評価 A ⇒ (取組評価点数) 90～100 点、取組評価 B ⇒ 70～89 点、

取組評価 C ⇒ 50～69 点、取組評価 D ⇒ 30～49 点、取組評価 E ⇒ 0～29 点

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	○改善すべき取り組みや項目とその修正点 ・「緑のカーテン」講座にあたっては、アクセスの良い本庁舎での開催、また、市民の気を引く講座内容及び広報を行う。 ・アンケート形式、内容を簡素化し回答率の上昇を図る。
--------------------	--

本年度の課題などを整理し、次年度に向けた改善点をまとめます。

～ 重点プロジェクト別 点検評価書の見方－２ ～

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価※
●取り組みの広報（行政） ・緑のカーテンに関する広報 [定量-2]	延べ 10回 以上	・講座開催の広報 （広報あづみの、市 HP、市 twitter、環境市民 NW メール、 公共施設、小学校への配布チラ シ） ・写真展開催の広報 （広報あづみの、市 HP、環境フ ェアチラシ、市民タイムス）	延べ 10回	A
●取り組みの実施（行政） ・「緑のカーテン」講座の開催 講師：NPO 法人あづみ野風土舎、市 民 NW、推進会議委員 演題：「緑のカーテン」の育て方 「緑化活動」の紹介、 「夏の省エネ対策」など 「ゴーヤ苗」無料配布 [定量-2]	6/3	・三郷公民館講堂にて実施 ・講師 NPO 法人あづみ野 風土舎、地球温暖化防止 コミュニケーター樋口 嘉一氏 ・参加人数：18 人	6/3	A
・「緑のカーテン」アンケート実施 [定量-2]	1回 回答率 60%以上	・11 件（61%） ・講座参加家庭における実 施率 57%	9、10 月	A
・「緑のカーテン」写真展の募集（あづみ 野風土舎との共催） ・安曇野環境フェアで応募写真の展 示 [定量-2]	8月募集 10/7、8 展示	・広報あづみの、市 HP、市 twitter にて募集	7、8月 10/7、8	A
・市の管理施設等での 取り組みの実施 [定量-2]	30 箇所 500 本 以上	・36 箇所、683 本 （ゴーヤ 229 本、 アサガオ 454 本）	通年	A
●取り組みの実施（市民・事業者） ・「緑のカーテン」講座への参加 [定量-2]	30人 以上	・参加人数 18 人	6/3	B
・「緑のカーテン」写真展への参加 [定量-2]	8月募集 10/7、8 展示 30件 以上	・16 件応募	10/7、8	C

本年度当初に策
定した計画とそ
の結果です。
結果は評価※と
して記号で示し
ます。

※評価

- ・ 定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C
- ・ 定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E
- ・ 定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書（ 中間時 / 年度末時 ）

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	①：緑化と省エネを主体とした CO ₂ 削減に取り組む
事業名	①-1 緑を増やして CO ₂ を削減しよう
目的	・生活環境における緑化が、エネルギーの消費を低減し CO ₂ 削減につながる効果について学び、緑化への取り組みを推進し、温暖化防止をはかる。
目標	・講座参加家庭における実施率を 65%とする
担当課・係	環境課 環境政策係

■本年度の実績評価

業績評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	L2-C	
60		
取組評価 (Check)	A	
進捗状況 (Check)	○	

※進捗状況⇒予定どおり……○、遅れている……×

※平成 29 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	5	1	1			7
点数	500	80	60			640
					取組評価点数	91

※取組評価点数＝個別目標評価点合計／目標数（評価項目数）

※取組評価 A⇒(取組評価点数)90～100 点、取組評価 B⇒70～89 点、

取組評価 C⇒50～69 点、取組評価 D⇒30～49 点、取組評価 E⇒0～29 点

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	○改善すべき取り組みや項目とその修正点 ・「緑のカーテン」講座にあたっては、アクセスの良い本庁舎での開催、また、市民の気を引く講座内容及び広報を行う。 ・アンケート形式、内容を簡素化し回答率の上昇を図る。
----------------	--

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価※
<p>●取り組みの広報（行政）</p> <p>・緑のカーテンに関する広報 [定量-2]</p>	延べ 10回 以上	<p>・講座開催の広報 （広報あづみの、市 HP、市 twitter、環境市民 NW メール、公共施設、小学校への配布チラシ）</p> <p>・写真展開催の広報 （広報あづみの、市 HP、環境フェアチラシ、市民タイムス）</p>	延べ 10回	A
<p>●取り組みの実施（行政）</p> <p>・「緑のカーテン」講座の開催 講師：NPO 法人あづみ野風土舎、市民 NW、推進会議委員 演題：「緑のカーテン」の育て方 「緑化活動」の紹介、 「夏の省エネ対策」など 「ゴーヤ苗」無料配布 [定量-2]</p>	6/3	<p>・三郷公民館講堂にて実施</p> <p>・講師 NPO 法人あづみ野風土舎、地球温暖化防止コミュニケーター樋口嘉一氏</p> <p>・参加人数：18 人</p>	6/3	A
<p>・「緑のカーテン」アンケート実施 [定量-2]</p>	1回 回答率 60%以上	<p>・11 件 (61%)</p> <p>・講座参加家庭における実施率 57%</p>	9、10 月	A
<p>・「緑のカーテン」写真展の募集（あづみ野風土舎との共催）</p> <p>・安曇野環境フェアで応募写真の展示 [定量-2]</p>	8月募集 10/7、8 展示	<p>・広報あづみの、市 HP、市 twitter にて募集</p>	7、8月 10/7、8	A
<p>・市の管理施設等での 取り組みの実施 [定量-2]</p>	30箇所 500本 以上	<p>・36 箇所、683 本 （ゴーヤ 229 本、アサガオ 454 本）</p>	通年	A
<p>●取り組みの実施（市民・事業者）</p> <p>・「緑のカーテン」講座への参加 [定量-2]</p>	30人 以上	<p>・参加人数 18 人</p>	6/3	B
<p>・「緑のカーテン」写真展への参加 [定量-2]</p>	8月募集 10/7、8 展示 30件 以上	<p>・16 件応募</p>	10/7、8	C

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100＝ 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	①：緑化と省エネを主体とした CO ₂ 削減に取り組む
事業名	①-2 CO ₂ 排出量を「見える化」し、生活スタイルを改善しよう
目的	・CO ₂ の排出量を「見える化」し、必要とするエネルギーの用途や代替手段を見直し、省エネルギーを促進させる。
目標	・平成 20 年度 (2008 年度) 比 15%以上の CO ₂ を削減させる。
担当課・係	環境課 環境政策係

■本年度の実績評価

業績評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	L3-D	
取組評価 (Check)	A	・事業者向けの省エネ対策講演会 環境講座では、事例紹介を中心とした講習を行い、19 人の出席があった。
進捗状況 (Check)	×	○不十分だった取り組みや項目、その要因 ・CO ₂ 削減コンテストの実施、事業者向けの省エネ対策講演会 CO ₂ 削減コンテスト、事業者向けの省エネ対策講演会への応募、参加者が目標に届かなかった。

※進捗状況⇒予定どおり……○、遅れている……×

※平成 29 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	8	1	2			11
点数	800	80	120			1000
					取組評価点数	91

※取組評価点数＝個別目標評価点合計／目標数 (評価項目数)

※取組評価 A ⇒ (総合評価点数) 90～100 点、取組評価 B ⇒ 70～89 点、

取組評価 C ⇒ 50～69 点、取組評価 D ⇒ 30～49 点、取組評価 E ⇒ 0～29 点

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	○改善すべき取り組みや項目とその修正点 ・引き続き身近なところからの排出量削減手段や市域における排出量の現況を情報発信する。(広報、twitter、安曇野環境フェアなど) ・「安曇野市版環境家計簿」モニター、CO ₂ 削減コンテストへの参加者を増やし、CO ₂ 削減への意識を高める。 ・目標については、市地球温暖化対策実行計画に定める 2020 年まで引き続き取り組みを行いつつ算出に係る検討を行う。
----------------	--

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価※
●取り組みの広報（行政） ・CO ₂ 排出量削減に関する広報 [定量-2]	延べ 10 回以上	・H28 環境家計簿モニター結果 ・CO ₂ 削減コンテスト募集 ・講座開催広報 ・H28 市域排出量推計値 (広報あつみの、市 HP、市 twitter、環境フェア)	延べ 12 回	A
●取り組みの実施（行政） ・「安曇野市版環境家計簿」の実施 [定量-2]	登録数 100 世帯以上	・登録世帯数 122 件	1/1～ 12/31	A
・CO ₂ 削減コンテストの実施	参加者数 家庭の部 30 世帯以上	・登録数世帯数 29 件	7/1～ 9/30	A
・事業者への温室効果ガス排出量 アンケートの実施 [定量-2]	1 回	・10/26 実施環境講座内 にて実施 19 人参加	10/26	A
・事業団体等への CO ₂ 削減啓発 [定量-1]	広報紙折込 等 1 回以上	・安曇野市商工会、安曇野 工業会会員に環境フェ アチラシ配布	9/12	A
・事業者向けの省エネ対策講演会 [定量-2]	1 回 参加者 20 人以上	・10/26 実施「省エネは大 事だけど、どうすれば良 いの？」19 人参加	10/26	A
・公共施設に関連する CO ₂ 排出量 の管理 [定量-2]	通年	・H28 実績 19,885,598kg-CO ₂ (基準年度(H27)比 3.12%増、 前年度比 3.12%増)、平成 20 年度比 4.81%減)	7/18	C
・安曇野市地球温暖化対策行動計 画に基づく取組の推進	通年	・2014 年時点における推計値 651,104t-CO ₂ (前年度比 2.33%減)	4/1	C
●取り組みの実施(市民・事業者) ・「安曇野市版環境家計簿」への参 加 [定量-2]	登録数 100 世帯以上	・登録世帯数 122 件	1/1～ 12/31	A
・温室効果ガス排出量アンケート への参加 [定量-2]	1 回 回答率 60%以上	・10/26 実施環境講座内 にて実施 19 人中 14 人回収	10/26	B
・講演会、講習会への参加	各講演会、 講習会 20 人以上	・10/26 実施「省エネは大 事だけど、どうすれば良 いの？」19 人参加	10/26	A

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量/目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	②：安曇野にふさわしい生態系を守る
事業名	②-1 身近に生息・生育する外来生物を調べよう
目的	・外来生物についての情報を広く発信し、外来生物に対する意識を高める ・外来生物の生息・生育状況を調査し、安曇野市に生息・生育する外来生物の実態を把握する。
目標	収集した外来生物の生息・生育情報を、地図などに整理して公表する。
担当課・係	環境課・環境政策係

■本年度の実績評価

業績評価 (Check)	【評価】 L2-B	総合コメント ○効果的だった取り組みや項目 ・特定外来生物に関する駆除啓発チラシの配布 配布後には多くの市民の方から情報提供があった。 一部の区や事業者等では駆除作業時の資料として活用された。
	80	
取組評価 (Check)	A	
進捗状況 (Check)	○	○不十分だった取り組みや項目、その要因 ・特定外来生物リポーターへの登録 登録後、報告が少なくなっている方もいるため、リポーター通信などによる周知により参加・協力する意欲を高めたい。

※進捗状況⇒予定どおり・・・○、遅れている・・・×

※平成 29 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	7	1				8
点数	700	80				780
					取組評価点数	98

※取組評価点数＝個別目標評価点合計／目標数（評価項目数）

※取組評価 A ⇒ (総合評価点数) 90～100 点、取組評価 B ⇒ 70～89 点、

取組評価 C ⇒ 50～69 点、取組評価 D ⇒ 30～49 点、取組評価 E ⇒ 0～29 点

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	○次年度への展望 ・特定外来生物リポーター通信の発行 より報告しやすくなる、ボランティア駆除に協力いただけるよう、 写真等を増やし分かりやすい内容になるよう努めたい。
----------------	--

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価※
●取り組みの広報（主体：行政） ・特定外来生物（アライグマ、オオカブト、カマキリ、クマゼミ、クワガタムシ）に関する駆除啓発チラシの全戸配布【定量-2】	1回	・広報あづみの（第250号）による周知	6/7	A
・特定外来生物の生息・生育情報の提供依頼【定量-2】	3回	・広報あづみの（第250号）による周知	6/7	A
		・自然観察会での呼び掛け	7/1 8/19 10/21	
		・環カフェでの呼び掛け	6/3	
・特定外来生物の生息・生育情報の集計結果の周知【定量-2】	2回	・区長会等での報告 ・市ホームページへの掲載	2月 3/30	A
・特定外来生物リポーターへの情報発信【定量-2】	2回	・リポーター通信第3号 ・リポーター通信第4号	6/9 12/15	A
●取り組みの実施（主体：行政） ・特定外来生物の生息・生育情報の収集【定量-2】	情報収集 100件 以上	・市民・事業者からの 情報提供件数 92件	随時	A
・特定外来生物リポーターの募集【定量-2】	2回	・自然観察会および 環カフェでの呼び掛け	6/3 7/1 8/19 10/21	A
●取り組みの実施（主体：市民・事業者） ・特定外来生物の生息・生育情報の提供【定量-2】	情報提供 100件 以上	・市民・事業者からの 情報提供件数 92件	随時	A
・特定外来生物リポーターへの登録【定量-2】	累計 60人 以上	・新規登録者 11人 累計登録者 43人	随時	B

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100＝ 90～100⇒A 60～89⇒B 30～59⇒C 10～29⇒D 0～9⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	②：安曇野にふさわしい生態系を守る
事業名	②-2 早期外来植物対策で繁殖拡大を防ごう
目的	・外来植物早期対策モデル地区を設定して、駆除活動を実施し、目標とする景観（在来種の生息する環境）を目指す。 ・侵入初期段階の外来植物をみつけた場合、早期の対応を検討・実施する。 ・侵入初期段階での対策が効果的であることを周知する。
目標	モデル地区での駆除活動を実施し、結果をまとめる
担当課・係	環境課・環境政策係

■本年度の実績評価

業績評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	L2-B	
	80	○効果的だった取り組みや項目 ・モデル地区におけるオオカワヂシャ駆除活動 昨年に引き続き市民ボランティアを募り駆除活動を実施した。 市民ボランティアの協力者数が増加したほか、根絶には至らないものの群生が縮小した。 ○不十分だった取り組みや項目、その要因 ・事業者の取り組みに関する情報収集 安曇野環境フェアでの出展団体アンケートにて盛り込んだが、 取り組み事業者に関する新規情報は無かった。
取組評価 (Check)	A	
進捗状況 (Check)	○	

※進捗状況⇒予定どおり……○、遅れている……×

※平成 29 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	9		1			10
点数	900		60			960
					取組評価点数	96

※取組評価点数＝個別目標評価点合計／目標数（評価項目数）

※取組評価 A ⇒（総合評価点数）90～100 点、取組評価 B ⇒70～89 点、

取組評価 C ⇒50～69 点、取組評価 D ⇒30～49 点、取組評価 E ⇒0～29 点

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	○次年度への展望 特定外来生物の生育箇所について継続して情報収集するとともに、効果的な駆除手法や実施時期などに関する情報があれば地元区などへ情報を共有していく。
----------------	---

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価※
●取り組みの広報（主体：行政）				
・ 駆除啓発チラシの配布 【定量-1】	1 回	・ 広報あづみの（第 250 号）による周知	6 / 7	A
・ 駆除啓発ポスターの配布 【定量-1】	1 回	・ 各区環境部長への配布	6 / 15	A
・ アレチウリなどの駆除結果報告 【定量-2】	2 回	・ 区長会等での報告 ・ 市ホームページへの掲載	2 月 3 / 30	A
●取り組みの実施（主体：行政）				
・ 駆除研修会の実施 【定量-2】	1 回 以上	・ 対象：区長・環境部長 24 人 （水辺公園マレットゴルフ場） ・ 対象：事業者 106 人 （水辺公園マレットゴルフ場）	6 / 18 8 / 5	A
・ 区などへの駆除の実施依頼 【定量-2】	3 回	・ 区長会での依頼 4 / 14 豊科地域 4 / 19 堀金地域 4 / 20 穂高地域 4 / 21 明科地域 4 / 26 三郷地域 ・ 環境部長会議での依頼 4 / 12 三郷・明科地域 4 / 13 穂高・堀金地域 4 / 17 豊科地域	4 / 12 ～ 4 / 26	A
・ 駆除方法等についての課題等の 収集（アンケート） 【定量-1】	1 回	・ 全区へのアンケート	随時	A
・ 流域での対策について関係機関 と協議【定量-2】	1 回	・ 安曇野建設事務所と協議	4 / 20	A
・ モデル地区（穂高地域 三角島） のオオカワヂシャ駆除作業 【定量-2】	3 回	・ 駆除ボランティア（市民） ・ 三角島ふるさとの森 プロジェクト ・ 環境課	6 / 19 7 / 30 12 / 25	A
・ モデル地区（穂高地域 三角島） の駆除成果モニタリング 【定量-2】	1 回	・ 基準年度と同時期に モニタリング実施	3 / 10	A
●取り組みの実施（主体：市民・事業者）				
・ アレチウリなど駆除の実施 【定量-2】	参加者 7,790 人 以上	・ 行政区…57 区 7,425 人 ・ ボランティア団体 … 1 団体 70 人 （三角島ふるさとの森プロジェクト） ・ 事業者… 1 事業者 106 人 計 7,601 人による協力	随時	A
・ 駆除方法についての課題等の 回答（アンケート）【定量-1】	1 回	・ 一部区より市アンケート への回答あり	随時	A
・ 事業者の取り組みの報告 【定量-2】	事業者数 10 社以上	・ 安曇野環境フェア 2017 来場者アンケートによる 取り組み把握ほか 4 社	10 / 7、8	C

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100⇒A 60～89⇒B 30～59⇒C 10～29⇒D 0～9⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	② : 安曇野にふさわしい生態系を守る
事業名	②-3 安曇野の自然まるわかり観察会
目的	・安曇野の豊かな自然環境をいかし、様々な環境を対象とした自然観察会や学習講座を行うことによりその重要性を認識し、地元の自然環境を大切にすることを意識を高める。
目標	年間 3 回 (春・夏・秋) 以上の自然観察会または学習講座を開催する。
担当課・係	環境課・環境政策係

■本年度の実績評価

業績評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	L2-B	
80		
取組評価 (Check)	A	
進捗状況 (Check)	○	○不十分だった取り組みや項目、その要因 ・植物に関する講座の集客 今回に限らず、植物をテーマとする講座は参加申込が少ない傾向にあるため、他のテーマと絡めるなど工夫が必要である。

※進捗状況⇒予定どおり……○、遅れている……×

※平成 29 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	5	2				7
点数	500	160				660
					取組評価点数	94

※取組評価点数＝個別目標評価点合計／目標数 (評価項目数)

※取組評価 A ⇒ (総合評価点数) 90～100 点、取組評価 B ⇒ 70～89 点、

取組評価 C ⇒ 50～69 点、取組評価 D ⇒ 30～49 点、取組評価 E ⇒ 0～29 点

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	○次年度への展望 5 年に一度実施する「生きもの調査」の年にあたるため、今年度に自然観察会に参加し、興味関心をお寄せいただいた市民の方へ再度周知を図り、自然に触れ合う機会や情報を継続して提供していきたい。
----------------	---

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価※
<p>●取り組みの広報（主体：行政）</p> <p>・参加者募集について広報誌、ホームページへの掲載 [定量-2]</p>	講座回数 × 2回	<p>第 1 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報あづみの（第 250 号）による周知 ・市ホームページ掲載 <p>第 2 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報あづみの（第 253 号）による周知 ・市ホームページ掲載 <p>第 3 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報あづみの（第 257 号）による周知 ・市ホームページ掲載 <p>※その他、ラジオでの告知や新聞等のイベント欄への掲載</p>	<p>6 / 7</p> <p>6 / 7</p> <p>7 / 19</p> <p>7 / 20</p> <p>10 / 4</p> <p>10 / 12</p>	A
<p>・参加者募集について小学校への案内 [定量-2]</p>	講座回数 × 1回	<p>第 1 回 小学校高学年</p> <p>第 2 回 小学校高学年</p> <p>第 3 回 未配布</p>	<p>6 / 16</p> <p>7 / 20</p> <p>-</p>	B
<p>・自然観察会の結果広報 [定量-1]</p>	講座回数 × 1回	<p>・市ホームページ、安曇野エコプラン.net 掲載</p>	12 / 27	A
<p>●取り組みの実施（主体：行政）</p> <p>・春の観察会 「アオサギのコロニーと三角島の自然」 [定量-2]</p>	参加者 30人以上	<p>場 所：礫山公園研成ホール</p> <p>講 師：植松 晃岳 氏</p> <p>参加者：30人</p>	7 / 1	A
<p>・夏の観察会 「あかりに集まる昆虫と夜のケモノたち」 [定量-2]</p>	参加者 30人以上	<p>場 所：長野県烏川溪谷緑地</p> <p>講 師：中田 信好 氏</p> <p>参加者：33人</p>	8 / 19	A
<p>・秋の観察会 「バスで巡る安曇野の森 一里から奥山まで」 [定量-2]</p>	参加者 25人以上	<p>場 所：三郷スカイラインほか</p> <p>講 師：松田 貴子 氏</p> <p>参加者：17人</p>	10 / 21	B
<p>●取り組みの実施（主体：市民・事業者）</p> <p>・自然観察会への参加 [定量-2]</p>	各講座 目標値 以上	<p>・各観察会への参加</p>	<p>7 / 1</p> <p>8 / 19</p> <p>10 / 21</p>	A

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	③：身近な水辺を育み地域の歴史と文化を大切にする
事業名	③-1 安曇野の水辺体験
目的	安曇野市の水辺に慣れ親しむことにより、水辺環境の大切さを身近なものとして実感し、保全につなげる。
目標	・年3回の親水イベントを実施する。
担当課・係	環境課 環境政策係

■本年度の実績評価

業績評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	L1-B	
60		
取組評価 (Check)	A	
進捗状況 (Check)	○	

※進捗状況⇒予定どおり……○、遅れている……×

※平成 29 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	13					13
点数	1,300					1,300
					取組評価点数	100

※取組評価点数＝個別目標評価点合計／目標数（評価項目数）

※取組評価 A ⇒ (取組評価点数) 90～100 点、取組評価 B ⇒ 70～89 点、

取組評価 C ⇒ 50～69 点、取組評価 D ⇒ 30～49 点、取組評価 E ⇒ 0～29 点

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> ・本講座で得たノウハウを他の事業にいかし、幅広い年齢層で多くの参加者が見込める内容を検討する。
----------------	---

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
●取り組みの広報（行政）				
・「親水イベント」参加者募集（小学校への案内など） 講座実施回数×2回 [定量-2]	実施 1カ月前	・「黒沢川の歴史と環境を探る」 ポスター・チラシ 広報あづみの（250号） 市ホームページ	6/1 6/7 6/7	A
		・「三角島の緑と水に親しむ集い」 広報あづみの（252号） 市ホームページ ポスター・チラシ	7/5 7/5 7/6	A
		・「切り紙で作品づくり」 ポスター・チラシ 広報あづみの（256号） 市ホームページ ほか	9/13 9/20 9/27 ほか	A
●取り組みの実施（行政他）				
○「黒沢川の歴史と環境を探る」 参加者数 20人以上 [定量-2]	6/24	○「黒沢川の歴史と環境を探る」 参加者 23人	6/24	A
○「三角島でのボート体験」 参加者数 20人以上 [定量-2]	7/30	○「三角島の緑と水に親しむ集い」 参加者 30人	7/30	A
○環境フェアでの体験ブース出展 参加者 50人以上 [定量-2]	10/7、8	○「切り紙で作品づくり」 参加者 70人	10/7、8	A
○NPO 法人 川の自然と文化研究所との協力、後援 [定量-1] 水運に関する講演会 安曇野の水に関する記録写真の収集	随時	○第12回川の自然と文化講演会 講演：「お船祭りと川と海と-海を慕う“こころ”-」（倉石忠彦氏） 「変わりゆく千曲川・犀川の魚類と漁業」（北野聡氏）、 パネルディスカッション：「安曇野の川の自然と歴史文化の課題と今後の取り組みに向けて」 参加者 60人	7/8	A
○三角島ふるさとの森プロジェクトへの協力 [定量-1] アレチウリ駆除 三角島の自然を楽しむ集い 三角島の自然を描く集い	6月～9月	アレチウリ駆除・草刈り 参加者 7人 「三角島の緑と水に親しむ集い」 参加者 30人 「三角島の自然を描く集い」 参加者 33人	7/22 7/30 9/9	A
●取り組みの実施（市民・事業者）				
・「親水イベント」への参加 [定量-1] [定量-2]	6月～9月	講座「黒沢の歴史と環境を探る」 参加者 23人	6/24	A
		講座「三角島の緑と水に親しむ集い」 参加者 30人	7/30	A
		「切り紙で作品づくり」 参加者 70人	10/7、8	A
		○第12回川の自然と文化講演会 参加者 60人	7/8	A
		三角島アレチウリ駆除・草刈り 参加者 7人	7/22	A
		「三角島の自然を描く集い」 参加者 33人	9/9	A

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	③：身近な水辺を育み地域の歴史と文化を大切にする
事業名	③-2 歩いて楽しいまちづくり
目的	・市民が市内を歩いて身の回りの「いいところ」を知り、そのよさに共感する人々と交流し、楽しみながら守り育て、コミュニティや地域の活性化等を促す。
目標	・モデル地区（明科地域潮沢区）が継続した取り組みができるための組織づくり。（計画におけるステップ3）
担当課・係	環境課 環境政策係

■本年度の実績評価

業績評価 (Check)	【評価】	総合コメント ○効果的だった取り組みや項目 ・明科の魅力再発見講座「廃線敷に D51 が走った時代」 ・潮沢区防災訓練での取り組み内容の周知 地域の方による活動を地域の方に知っていただく機会であり、地域の魅力を地域の方が伝えていくというプロジェクトの趣旨に沿った有意義な取り組みであった。
	L2-B	
80		
取組評価 (Check)	A	
進捗状況 (Check)	○	○不十分だった取り組みや項目、その要因 ・特になし

※進捗状況⇒予定どおり……○、遅れている……×

※平成 29 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	4					4
点数	400					400
					取組評価点数	100

※取組評価点数＝個別目標評価点合計／目標数（評価項目数）

※取組評価 A ⇒ (取組評価点数) 90～100 点、取組評価 B ⇒ 70～89 点、

取組評価 C ⇒ 50～69 点、取組評価 D ⇒ 30～49 点、取組評価 E ⇒ 0～29 点

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	○次年度への展望 平成 30 年度は、潮沢区のサークルの一組織として「潮沢ロマンの会」が主体となり、市地域力向上交付金を活用しながら歴史・文化的資源について掘り起しを継続していく。 これに伴い、次年度は環境課が活動の庶務についてサポートするとともに、プロジェクトメンバー有志がボランティアとして助言・協力していく。
----------------	---

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価※
<p>●取り組みの広報</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル地区での取り組みの紹介と広報 ホームページを活用した情報発信 <p>[定量-2]</p>	各 1 回	<ul style="list-style-type: none"> 広報あづみの第 256 号による周知 市内保育園、小・中学校への子ども向けチラシによる周知 市ホームページ、安曇野エコプラン.net への掲載 	9/20 9/29 9/27	A
<p>●取り組みの実施</p> <p>○学習講座の開催 1 回 「潮沢地区学習講座」 [定量-2]</p>	参加者 20 人 以上	<ul style="list-style-type: none"> 明科の魅力再発見講座「廃線敷に D51 が走った時代」 場 所：明科公民館 聴講者：46 人 安曇野環境フェア 2017「ロマンを求めて潮沢」 場 所：堀金総合体育館 聴講者：18 人 	6/20 10/7	A
<p>○まちづくりに向けた資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元組織の活動に必要な資料の作成 <p>①潮沢の歴史、②岩州、③廃線敷をテーマにしたナレーション付き DVD の作成 [定量-1]</p>	DVD 等の作成	<ul style="list-style-type: none"> DVD 案に関する検討 	11～2 月 検討 2/21 完成	A
<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 取り組み事業の内容に応じて必要なサポートを行う 「楽しむ」から「受け継ぐ」過程の専門分野での協力 地元地区との協働した取り組みができる仕組みづくり <p>[定性]</p>	取り組み継続のための組織づくり	地元団体「潮沢ロマンの会」への取り組み移行調整 <ul style="list-style-type: none"> 潮沢区防災訓練での取り組み内容の周知 潮沢区代議員会での取り組み移行の説明 次年度の展望に関する調整 <ul style="list-style-type: none"> 取り組み体制の検討 他自治体の視察対応 <ul style="list-style-type: none"> 兵庫県高砂市 	11/12 12/18 2/21 7/18	A

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	④森づくりを推進する
事業名	④-1 安曇野市里山再生計画推進事業 【④-3 森林活用事業含、⑩-3 バイオマス燃料の調査・検討・活用の取り組み含】
目的	1) 多種多様な環境から成り立つ里山 2) 多くの人々が里山を資源として利用 3) 災害の少ない安全な暮らしをもたらす里山
目標	1) 木質バイオマス利用促進 2) 安曇野材の利用促進 3) さとぶろ。学校の開設・運営 4) 里山保全・体験学習の市民参加型イベントの企画と運営 5) 松枯れ予防対策の実践
担当課・係	耕地林務課 林務担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価*
1) 木質バイオマスの利用促進 ・プロジェクト会議の開催 ・森林整備による薪づくり ・チェーンソー講習会の開催 ・薪ボイラーへの薪の供給 [定量-1]	通年	プロジェクト会議 (第1回) (第2回) (第3回) 森林整備による薪づくり 明科地区(第1回) (第2回) (第3回) (第4回) (第5回) (第6回) (第7回) (第8回) (第9回) (第10回) (第11回) (第12回) 安全講習 チェーンソー講習 薪ボイラーへの薪供給 335.2 m ³ /年	4/11 7/14 12/19 5/10 5/29 6/10 6/19 8/25 10/2 10/16 11/7 11/14 11/28 12/5 12/19 2/13 3/6	A

Plan		Do		Check			
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※			
2) 安曇野材の利用促進 ・プロジェクト会議の開催 ・積木ワークショップ開催 ・安曇野材住宅パンフ作成 ・安曇野材による木育活動 [定量-1]	通年	プロジェクト会議 (第1回) 6/29 (第2回) 1/31 (第3回) 3/6		A			
		安曇野材専門部会 " (第1回) 7/20 " (第2回) 8/9 " (第3回) 9/1 " (第4回) 10/11 " (第5回) 11/29 " (第6回) 12/12 " (第7回) 1/10 " (第8回) 2/8					
		積木ワークショップ 環境フェア 10/7 信州バザール 11/11・12					
		あづみの里山市 10/22					
		安曇野材住宅パンフ作成					
		安曇野材ミニハウスの作製					
		プロジェクト会議 さとふろ。学校Ⅱ期開校 4/26 さとふろ。学校 第2講 5/17 さとふろ。学校 第3講 6/25 さとふろ。学校 第4講 7/26 さとふろ。学校 第5講 8/30 さとふろ。学校 第6講 9/27 さとふろ。学校 第7講 10/25 さとふろ。学校 第8講 11/22 さとふろ。学校 第9講 12/6 さとふろ。学校 第10講 12/20 全10講 受講生16人			A		
		・森林(もり)の里親促進活動 活動回数3回 [定量-2]	通年			契約件数1件(GE富士電機M) 森林の里親森林整備 第1回 5/20 " 第2回 9/22	B
		・みどりの少年団活動・・・小学校6校 中学校2校の活動 [定量-1]				活動助成 小学校4校 中学校2校 みどりの少年団交流集会 8/2	A
		・学有林活動・・・小学校1校 中学校3校の活動 [定量-1]				穂高西中3年学有林作業 (豊科南中等、雨天中止) 6/15	A

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
4) 里山保全・体験学習の市民参加型企画と運営 ・プロジェクト会議の開催 ・イベントの企画運営 [定量-1]	通年	プロジェクト会議		A
		〃 (第1回)	6/19	
		〃 (第2回)	7/24	
		〃 (第3回)	8/24	
		〃 (第4回)	9/28	
		〃 (第5回)	11/9	
		〃 (第6回)	12/21	
		〃 (第7回)	2/6	
		〃 (第8回)	3/15	
		「森林の楽校」	10/28 29	
		「ハンターと歩く里山」	11/18 1/27	
5) 松枯れ予防対策の実践 ・プロジェクト会議の開催 ・更新伐跡地での里山再生活動 ・モデル林での活動 [定量-1]	通年	プロジェクト会議		A
		〃 (第1回)	4/24	
		〃 (第2回)	5/22	
		〃 (第3回)	6/27	
		〃 (第4回)	7/27	
		〃 (第5回)	8/29	
		〃 (第6回)	9/26	
		〃 (第7回)	10/31	
		〃 (第8回)	11/28	
		〃 (第9回)	12/26	
		〃 (第10回)	1/30	
		〃 (第11回)	2/27	
		〃 (第12回)	3/27	
		更新伐跡地での活動	11/19	
		樹幹注入講習体験会	12/13 12/17	
		室山再生の取組	3/13	

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ④-1 安曇野市里山再生計画策定事業（④-3 森林活用事業 含）

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○効果的だった取り組みや項目	
<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備による薪の生産活動が始まり、里山再生への関心が高まっている。 ・建築士、加工業者等による専門部会が設置され、安曇野材のPRが活発化された。 ・さとぷろ。学校第2期 全10講が始まり、受講生16人の参加により、新たな市民の里山での活動が始まった。 ・プロジェクト会議の実施、市内の里山の現状の確認 ・プロジェクト会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に実施できなかった安全講習、チェーンソー講習の実施により、取組の安全性が向上した。 ・建築士、加工業者等による専門部会が設置され、安曇野材のPRが活発化された。 ・さとぷろ。学校第2期 全10講により、受講生16人の参加により、新たな里山での活動が実施できた。 ・ハンターと歩く里山により狩猟やジビエ等に関心をあたえることができた。 ・更新伐跡地を歩く ・マツタケ再生の取組 	
○不十分だった取り組みや項目		
<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備の技術講習を実施前に行うべきだった。 ・前期は、安曇野材利用促進のPRを検討しただけで、周知まで至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薪生産に関わる仕組みを調整できなかった。 ・安曇野材のカタログ及びミニハウス作成が遅れたため、取組のPRが思うようにできなかった。 ・イベント数が計画の目標に達成しなかった。 	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・次のフィールドの確保及び、薪生産に関わる仕組みの構築が必要。 ・新たに設置された専門部会により、安曇野材のPRカタログ等など周知を拡大する。 ・後期も、さとぷろ。学校のプログラムにより計画的に実施する。 ・計画した市民参加型イベントを実施していく。 ・後期については、具体的な3つの取組を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次のフィールドの確保及び、薪生産に関わる仕組みづくり ・出来上がった安曇野材のPRカタログやミニハウスなどによりPRを拡大する。 ・3期目の「さとぷろ。学校」を計画的に実施する。 ・新たな市民参加型イベントを検討していく。 ・本年度の取組を継続する。 	

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	④森づくりを推進する
事業名	④-2 松くい虫被害対策事業
目的	松くい虫による被害木を最小限にするため、予防と防除対策及び松の保護育成を実施し、森林の多面的機能の発揮を促す。
目標	被害木伐倒駆除 5,300 m ³ 予防薬剤散布 34ha
担当課・係	耕地林務課 林務担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価※
被害木伐倒駆除事業 (補助事業) [定量-2]	5,000 m ³	≪ 3 月末現在 ≫ 被害量 7,899 m ³ 伐倒駆除 (補助事業) 3,783 m ³	4 月～3 月	B
被害木伐倒駆除事業 (市単事業) [定量-2]	300 m ³	≪ 3 月末現在 ≫ 伐倒駆除 (市単事業) 751 m ³	4 月～3 月	A
予防薬剤散布 ・地上散布 ・特別防除 ・無人ヘリ [定量-2]	34ha	予防薬剤散布実施 ・地上散布 4.0ha ・特別防除 5.0ha ・無人ヘリ 25.0ha	6 / 4 7 / 18 6 / 22 7 / 21 7 / 24	A

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ④-2 松くい虫被害対策事業

	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
総合評価 (Check)	○効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> 被害木の伐倒駆除は計画の51%の実施となった。 薬剤散布は計画どおり実施し、薬剤散布による効果を検証するため調査も実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 被害木の伐倒駆除は計画の86%の実施となった。 薬剤散布は計画どおり実施し、薬剤散布による効果を検証するため調査も実施した。
	○不十分だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> 被害地域における具体的な対策方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし

■次年度への展望と課題など

	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
改善 (Action)	○改善策	
	<ul style="list-style-type: none"> 東山、西山の対策方針の確定 効果検証の確認及び、内容の公表 	<ul style="list-style-type: none"> 西山の対策の検討 リスクコミュニケーションの充実
	<ul style="list-style-type: none"> 被害対策による効果が完全ではないとして、過剰な期待をもたせないように、市民向け説明会等で情報発信してほしい。（委員） 予防薬剤散布の前後におけるモニタリング結果についても併せて情報発信してほしい。（委員） 	

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	④森づくりを推進する
事業名	④-4 ニホンジカ対策
目的	農林業被害の軽減、自然環境への影響の軽減、個体数の削減・地域個体群の安定的な維持。
目標	捕獲目標 120 頭 (内訳：個体数調整 120 頭)
担当課・係	耕地林務課 林務担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価※
有害獣捕獲 (個体数調整) ・安曇野市猟友会への委託 (4/1～3/16) [定量-2]	120 頭	有害獣捕獲 (個体数調整) ・安曇野市猟友会への委託 実施 105 頭	4/1～ 3/16	B

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ④-4 ニホンジカ対策

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○ 効果的だった取り組みや項目	
	・安曇野市猟友会に委託し個体数調整を実施。	・巻き狩り・くくり罠による捕獲
	○ 不十分だった取り組みや項目、その要因	
・特になし	・特になし	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
	・引き続き個体数調整を行っていく。	・被害場所の把握に努め、くくり罠や巻き狩り等現場に適した方法により駆除を実施していく。

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑤耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	⑤-1 人・農地プランの実践・見直し (作成)
目的	農地の担い手等を明確にして農地の計画的な集積を図る。
目標	① 認定農業者の確保・育成・・・270 経営体 ② 集落営農組織の設立支援・・・28 組織 ③ 担い手への農地集積・・・3,000ha
担当課・係	農政課集落支援担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check	
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※	
各プランの実践 (個々の経営体の意向に沿った農地の流動化等)	プランの見直しの実施 (14 プランを 5 地域別に) [定量-1]	通年	14 プランの見直し実施	2 月～ 3 月	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
	認定農業者の確保・育成 目標：270 経営体 [定量-2]	通年	認定農業者数 273 経営体	通年	
	集落営農組織の設立支援 目標：28 組織 [定量-2]	通年	集落営農組織数 27 組織	通年	
	担い手への農地集積 目標：3,000ha [定量-2]	通年	農地集積 3,252ha	通年	

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑤-1 人・農地プランの作成

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○効果的だった取り組みや項目	
<ul style="list-style-type: none"> ・農業改善計画の作成支援による確保育成 ・集落営農組織への機械補助、設立支援金交付 ・農地中間管理機構を活用した農地のマッチング支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の掘り起こしにより認定農業者数 273 経営体（H30.3 末）となった。 ・各種支援策による集落営農組織数 27 組織となった。 ・管理機構の活用により農地集積 3,252ha（H29.3 末） 	
○不十分だった取り組みや項目		
・特になし	・特になし	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
・特になし	・農地中間管理機構を活用した農地集積を JA と連携して進める。	

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑤耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	⑤-2 就農支援
目的	国や市独自の給付金制度等により、次世代の農業の担い手や後継者づくりを進める。
目標	新規就農者の確保・育成…10 人/年
担当課・係	農政課集落支援担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
就農支援室(市再生協)による相談窓口業務の実施 [定量-1]	通年	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数 28 件 首都圏等での就農相談会参加 (3 回) 	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
青年就農給付金事業 (国からの就農支援金 @150 万円/年・最長 5 年) [定量-1]	通年	青年就農給付金交付 22 件	通年	
安曇野市親元就農促進事業 (機械等取得補助金 3/10 以内、就農支援金 @20 万円/年・最長 5 年) [定量-1]	通年	<ul style="list-style-type: none"> 機械等取得補助金交付件数 1 件 交付額 1,000 千円 支援金交付対象者 40 人 	通年	
		■新規就農者の確保・育成… 10 人		

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑤-2 就農支援

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○効果的だった取り組みや項目	
	・首都圏での新規就農相談会へ参加	・就農相談の実施により新規就農者 10人確保した。
	○不十分だった取り組みや項目	
・特になし	・特になし	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
	・青年等就農計画の作成支援をし就農者を確保する	・特になし

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑤耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	⑤-3 耕作放棄地の解消支援
目的	耕作放棄地の再生作業に対する補助事業の活用を推進し、新たな発生を防ぐ。
目標	耕作放棄地全体面積・・・40.0ha
担当課・係	農政課集落支援担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
・耕作放棄地再生利用対策（荒廃農地等利活用）の推進【国】 （農作物の生産再開に向けた条件整備に対する補助金の交付） [定量-2]	通年	交付対象件数 4 件 再生利用面積 15,262 m ²	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
・荒廃農地解消就農者支援制度の推進【市】 （一定規模の解消を行う農業者への支援金） （100 万円を 5 年分割交付） [定量-2]	通年	新規交付対象者 5 人 解消決定面積 17,529 m ²	通年	
・荒廃農地再生作業機械貸出事業【市再生協】 （歩行型草刈機の貸出等） [定量-2]	通年	貸出件数 91 件 活用面積 103,724 m ²	通年	
・荒廃農地発生防止・再生支援事業【市再生協】 （耕作条件不利農地や耕作放棄地に適した作物の栽培検証） [定量-2]	通年	ルバーブの栽培検証実施	通年	
・荒廃農地解消に向けた取り組みに対する市独自の補助制度の推進【市再生協】 [定量-2]	通年	荒廃農地解消者(団体・個人)への市農業再生協議会を通じた補助制度の推進	通年	
		■耕作放棄地全体面積・・・34.3ha		

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100＝ 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑤-3 耕作放棄地の解消支援

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○効果的だった取り組みや項目	
	・耕作放棄地解消者への交付金支援により耕作放棄地を解消	・農業委員と連携した荒廃農地の解消により耕作放棄地面積 34.3ha に減少。
	○不十分だった取り組みや項目、その要因	
	・特になし	・特になし

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
	・特になし	引き続き、交付金を活用して耕作放棄地の解消を進める。

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑤耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	⑤-4 中山間地域等直接支払
目的	農業生産条件が不利な状況にある地域における、農地・農村機能の維持と生産性の継続。
目標	農作物の作付率・・・90.0%
担当課・係	農政課集落支援担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
・中山間地域等直接支払交付金 (11 集落・約 86ha の活動に対する国・県・市からの交付金) [定量-1]	通年	交付確定集落 11 集落 交付確定額 14,851,361 円 交付対象面積 86.2ha	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
・安曇野市中山間地域農業直接支払事業 (上記の対象とならない4集落・約 24ha の活動に対する市単交付金) [定量-1]	通年	交付確定集落 4 集落 交付確定額 2,543,603 円 交付対象面積 24.2ha	通年	
[定量-2]		■農作物の作付率・・・88%		

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑤-4 中山間地域等直接支払

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○効果的だった取り組みや項目	
	・中山間地域等直接支払事業取組地域との面談により依頼	・集落への支援金交付より農作物の作付率88%となった。
	○不十分だった取り組みや項目、その要因	
・特になし	・特になし	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
・特になし	中山間の活動が維持できるよう引き続き支援していく。	

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑤耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	⑤-5 多目的機能支払交付金事業 (旧 農地・水保全管理支払交付金事業)
目的	農地の多目的機能の維持等を図るため、農業者が共同して取り組む地域活動や、農業用水路・農道等の維持補修への活動に支援する。
目標	活動組織の数 53 組織 取り組み率 49% (面積 2,950ha)
担当課・係	耕地林務課 耕地担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
多目的機能 (農業用水路・農道の草刈り、泥上げ、砂利補充など) を支える組織の拡充を図る。 【H28 組織数】 51 組織 [定量-2]	通年	多目的機能 (農業用水路・農道の草刈り、泥上げ、砂利補充等) を支える組織の拡充を図ることができた。 【H29 組織数】 53 組織	通年	A
遊休荒廃地への取り組みや、農道・水路敷きなどの草刈り作業を実施し、安曇野の風景や景観を守る。 【H28 取組状況】 ・ 取り組み面積 2,815ha ・ 農振農用地面積 6,074ha ・ 取り組み率 約 46% [定量-2]	通年	遊休荒廃地の解消や農道・水路敷きの草刈りの作業により、安曇野の風景や景観を守ることができた。また取組面積は 258ha 拡大できた。 【H29 取組状況】 ・ 取り組み面積 3,073ha ・ 農振農用地面積 6,074ha ・ 取り組み率 約 51%	通年	A

※定量-1: 実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2: 実施数量/目標数量×100= 90~100⇒A 60~89⇒B 30~59⇒C 10~29⇒D 0~9⇒E

定性: 良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑤-5 多目的機能支払交付金事業

	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
総合評価 (Check)	○効果的だった取り組みや項目	
	・地域の農業者の協力により組織を拡充することができた。	・活動組織数は2組織増加し53組織に拡大された。 ・面積の取組率が51%（面積3,073ha）に増加した。
	○不十分だった取り組みや項目	
	・特になし	・特になし

■次年度への展望と課題など

	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
改善 (Action)	○改善策	
	・新規組織に加入に向けた説明会を開催する。	・出前講座等の開催により、次年度は4組織拡大される計画です。

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑥地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
事業名	⑥-1 直売加工施設運営事業
目的	直売所の運営による地域農業の活性化。
目標	① 直売所での売り上げ・・・14 億 1,200 万円 ② 参加農家・・・580 戸
担当課・係	農政課マーケティング担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
① 現在の直売所売上げは、増加傾向ではないが目標の 14 億 1,200 万円に近づくよう、各直売所でのイベントを実施させ取り組みたい。	通年	平成 30 年 3 月末現在の直売所売上額、13 億 4,500 万円	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
② 市内直売所に対し、農家の確保と開拓説明会を実施してもらい、参加農家数を増やす。(目標 580 戸)	通年	直売所への仕入れ農家数推計 767 戸	通年	

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑥-1 直売加工施設運営事業

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○効果的だった取り組みや項目	
<ul style="list-style-type: none"> ・全直売所間での周遊イベントの開催。（スタンプラリーなど） ・各直売所で生産者説明会を実施し、参加農家の確保を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推計 767 戸の農家が、直売所に出荷している。 	
○ 不十分だった取り組みや項目		
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所によっては利用客や売上額が伸び悩んでいる状況があり、イベントなどPR強化が求められる。 	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・各直売所と協議を行い、今後の取り組み内容を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各直売所で新商品の開発など、誘客につながる取り組みを進めていきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・加工品の生産、販売による売り上げの向上の検討をお願いします。（委員） 		

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑥地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
事業名	⑥-2 地産地消の推進 (その 1)
目的	学校給食における、地元食材 (県内産) の使用率向上。
目標	① 米使用率 100%を維持…100% ② りんごの年間使用回数の増加… 5 回
担当課・係	農政課マーケティング担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
① お米は、現在の使用率を維持する他に、学校給食などでの使用頻度を増やす。 ※ 3 日/週の米飯給食を 4 日/週に使用率を上げる。	通年	①既に、学校給食で使用されているお米は、全て安曇野産である。 毎月 19 日「安曇野の日」は、JA・生産組合から米品種「風さやか」を入れ使用している。 米飯給食は、週約 3.7 日の実施となっている。	安曇野の日、毎月 19 日を基本に実施	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
② 地元産りんごの年間利用回数を増やす。 ※目標：5 回	通年	②学校給食にりんごが使用された回数、7 回		

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑥-2 地産地消の推進（その1）

	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
総合評価 (Check)	○効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ・米使用率の維持。 ・「安曇野の日」を中心に「風さやか」の使用推進。 ・主要農産物を給食で使用してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米使用率 100%を維持している。
	○不十分だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の品目についての検討

■次年度への展望と課題など

	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
改善 (Action)	○改善策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、安全・安心な地元農産物を提供できる体制を維持していきたい。

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑥地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
事業名	⑥-2 地産地消の推進 (その 2)
目的	学校給食における、地元食材 (県内産) の使用率向上。安曇野産米の使用回数の確保。
目標	「安曇野の日」【月 1 回】及び「ご飯の日」【年 30 回】の実施回数 : 42 回/年
担当課・係	学校教育課学校給食担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
<p>安曇野の旬の食材を多く使う「安曇野の日」(毎月 19 日を基本)を月 1 回実施。</p> <p>また、基本週 3 回の米飯給食の実施日に加え、麺類・パンの給食日から米飯給食に年間 30 回を振替えて実施している、米飯給食の日数の確保。</p> <p>[定量-2]</p> <p>週約 3.5 回の安曇野産のコメを使用した米飯給食の実施。</p> <p>新品種「風さやかの」の積極的な利用を進める。</p>	通年	<p>安曇野の日毎月実施中。</p> <p>米飯給食は年間 30 回増やす予定で取り組んでおり、基本週 3 日の米飯給食を週約 3.7 日の実施となっている。</p> <p>風さやかについては、JA・生産組合と協議して毎月実施の安曇野の日に使用するほか月 1～2 回の使用になっている。</p>	通年	A

※定量-1: 実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2: 実施数量/目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性: 良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑥-2 地産地消の推進（その2）

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の「安曇野の日」の実施 ・栄養教諭による学級訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の「安曇野の日」、ご飯の回数も週約3.7回で実施できた。
○不十分だった取り組みや項目		
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度通りの実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ・給食に必要な野菜の数量や時期について情報発信し、玉ねぎやじゃがいもなど保存管理しやすい食材を活用することで、安曇野産野菜の利用促進に努めてください。（委員） 		

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑦：豊かな地下水を保全する
事業名	⑦-1 水資源保全対策事業
目的	安曇野の水資源の保全、涵養、適正利用
目標	水環境基本計画の推進
担当課・係	環境課環境保全担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
地下水保全条例の運用 ・新規地下水採取者届出 ・地下水採取量年次報告 [定量 1]	通年 5 月末	採取届 6 件 事前協議 1 件 採取量報告 発送 286 件 報告 227 件	4 月～	A
地下水モニタリング (地下水・湧水・わさび田の水 位測定、地下水の水質検査) [定量 1]	通年	○水位測定 地下水 9カ所 湧水 2カ所 わさび田 2カ所 ○水質検査 井戸 28カ所 (一般飲料水) 6カ所 (トリクロエチレン) 3カ所 (硝酸態窒素)	4 月～ 8 月・2 月 9 月・3 月 9 月・3 月	A
水環境基本計画の推進 ・節水に関する取り組み ・出前講座の実施 [定量 1]	通年	○節水に関する取組み 10/7 地下水講座・水を知 るプログラムを実施 (環境フェア同時開催) ○出前講座 三郷：二木地区公民館 穂高：狐島ボランティア会 豊科：消費者の会石鹼部会	10/7 6/24 9/30 2/28	A

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑦-1 水資源保全対策事業

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○効果的だった取り組みや項目	
<ul style="list-style-type: none"> 水資源対策協議会の組織を改め、推進体制を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地下水採取量未報告者に対して督促を行い、回収率が向上した。 地下水講座、出前講座の実施により、節水、地下水への気づきを周知することができた。 	
○不十分だった取組や項目		
<ul style="list-style-type: none"> 新たな涵養施策の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 地下水採取量の未届者への対策 	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 新たな涵養施策、資金調達方法の枠組みの検討。 	<ul style="list-style-type: none"> より正確な地下水採取量を把握するため、届け出を促す。 環境フェアに合わせて地下水講座を開催するなど、継続して地下水の大切さを広報する。 	
<ul style="list-style-type: none"> 地下水のモニタリングについては、具体的な数値を示していただけの良い。(委員) 人が利用することをイメージした上で、「みせる水」や湧水公園など、水と触れ合える場の整備を期待します。(委員) 		

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑧：臭気規制を導入する
事業名	⑧-1 臭気規制の導入
目的	悪臭防止法に基づく臭気規制の導入
目標	臭気規制導入に伴う悪臭防止法の適正な運用
担当課・係	環境課環境保全担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
悪臭防止法に基づく適正な指導 [定量-1]	随時	臭気改善計画に基づく対策の進捗状況の管理と指導 ・臭気指数測定(6～8月) 3農家各3回 →2農家で各1回超過 ・臭気測定(3月) 3農家各2回×2日 →1農家で2回超過 ・計画復行状況確認 →不備事項を指摘	4月～ 3月	A
運用状況の環境審議会への報告 [定量-1]	随時	第1回環境審議会 第6回環境審議会	4/24 1/25	A

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100⇒A 60～89⇒B 30～59⇒C 10～29⇒D 0～9⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑧-1 臭気規制の導入

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○効果的だった取り組みや項目	
<ul style="list-style-type: none"> ・臭気指数測定結果の通知により農家の自覚を促す。 ・立ち入り調査により、不備事項の指摘 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上の定期的な立ち入り調査と見回りにより、事業者による対策が確実に実施された。 	
○不十分だった取り組みや項目		
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に調査、指導を行わないと、対策が持続されない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対策の実施により、臭気は低減したが、苦情が寄せられた。 	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な調査と指導により、農家の自主的な取り組みを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、定期的な立ち入り調査委による対策の進捗管理を行うことで、苦情のない臭気環境を目指す。 ・公害監視員による週1回の巡回を行い、公害の発生を監視する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・臭気の問題は簡単には解決しないので、都市計画で用途を区切っていくことが大事だと思う。（委員） 		

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑨：ごみを減らそう
事業名	⑨-1 ごみ減量化再利用対策事業 (家庭系)
目的	家庭系一般廃棄物の減量・資源化をはかる
目標	家庭系ごみ排出量 (市民 1 人 1 日当たり) …499 g リサイクル率…30.7%
担当課・係	廃棄物対策課廃棄物対策担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
安曇野市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の全部改正を行い、安曇野市廃棄物の適正処理等及び生活環境の保全に関する条例(案)を施行する。 [定量 1]	1 月	全部改正を行い、安曇野市廃棄物の適正処理等及び生活環境の保全に関する条例を制定 (平成 29 年 6 月 30 日条例第 15 号)、平成 30 年 1 月 1 日から施行。	6 / 30	A
ごみの適正分別指導・啓発 [定量 1]	通年	① 5 地域毎の環境部長会議を開催 ② 環境部長視察研修会 ③ 広報紙によるごみ減量・資源化の啓発 ④ ごみカレンダー配布	4 月 6 ~ 9 月 通年 2 ~ 3 月	A
生ごみ処理機器等購入費補助金交付事業 [定量 2]	通年	交付決定件数 87 件 交付決定額 1,337,400 円 執行率 78.67%	通年	B
緑のリサイクル事業 [定量 1]	4 月 ~ 11 月	6 カ所に排出置き場を設けチップ化処理と市民への提供を行った。 4 ~ 12 月稼働 処理量 : 120,055 kg	作業日数は延べ 56.5 日	A
使用済み小型家電回収事業 [定量 1]	通年	本庁舎・支所、大型店舗に設置した回収ボックスや 3 カ所のリサイクルセンターで拠点回収を行った。 回収量 : 39,240 kg 売却額 : 138,704 円	通年	A
家庭系ごみ排出量 目標 : 499g [定量 2]	■家庭系ごみ排出量 (市民 1 人 1 日当たり) … 463 g			A
リサイクル率 目標 : 30.7% [定量 2]	■リサイクル率 … 17.3%			C

※定量-1 : 実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2 : 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% ⇒ A 60 ~ 89% ⇒ B 30 ~ 59% ⇒ C 10 ~ 29% ⇒ D 0 ~ 9% ⇒ E

定性 : 良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑨-1 ごみ減量化再利用対策事業（家庭系）

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○ 効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙によるごみ減量・資源化の啓発、不用食器回収 ・現時点で18.4%の見込み 	<ul style="list-style-type: none"> ・市HP等による広報 ・市HP等による広報、リサイクルセンター等における拠点回収。
○ 不十分だった取り組みや項目		
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な広報・啓発の実施、生ごみ処理機等購入補助金の執行状況 ・定期的な広報・啓発の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ処理機等購入補助制度の利用促進 	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な広報の実施と30年2月に資源・ごみ分別のアプリサービスを開始したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭用資源物・ごみ出し方の手引き（改訂版）の発行、ごみ分別アプリケーションの普及広報。 ・民間回収の増加に伴い、市による資源物収集量は減少化にあるが、「資源物・ごみ出し方の手引き」の発行等によりリサイクルを推進する。

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑨：ごみを減らそう
事業名	⑨-2 ごみ減量化再利用対策事業（事業系）
目的	事業系一般廃棄物の減量・資源化
目標	事業系可燃ごみ排出量・・・7,745t
担当課・係	廃棄物対策課廃棄物対策担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
安曇野市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の全部改正を行い、安曇野市廃棄物の適正処理等及び生活環境の保全に関する条例(案)を施行する。 [定量 1]	通年	全部改正を行い、安曇野市廃棄物の適正処理等及び生活環境の保全に関する条例を制定（平成 29 年 6 月 30 日条例第 15 号）、平成 30 年 1 月 1 日から施行。	6 / 30	A
市有施設のごみ排出抑制、資源化を検証し改善指導 [定量 1]	通年	① 公文書の廃棄における分別資源化の促進・指導 ② 焼却に代わる処分方法として、製紙業者へ持ち込み溶融・資源化する方式を継続。 処分量：25,720 kg	11 月 4、8 12、2 月	A
事業系ごみの展開検査と分別収集指導 [定量 1]	通年	穂高クリーンセンターにおける展開調査に構成市町村として参加(1 回実施)	6 / 21	A
事業者への減量化と適正処理の協力要請 [定量 1]	通年	食品ロス削減啓発用コースターを配布	通年	A
収集運搬業者に向けた研修会 [定量 1]	7 月	収集運搬業者に新たに施行される条例、規則の説明・指導	次年度に延期	E
事業系可燃ごみ排出量 目標：7,745t [定量 2]		事業系可燃ごみ排出量・・・11,102t		E

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C
 定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E
 定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑨-2 ごみ減量化再利用対策事業（事業系）

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○ 効果的だった取り組みや項目	
	・焼却処分によらず、製紙業者へ搬入する溶融・資源化方式を継続する	・市 HP 等による広報。公文書の廃棄方法の一部を焼却ではなく、製紙業者へ持ち込み溶融・資源化する方法を継続。
	○ 不十分だった取り組みや項目	
・定期的な実施等が必要であった	・受け皿の整備等	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
	・搬入について製紙業者等と調整する	・事業所から排出される古紙をリサイクルセンターにて回収する。

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑩：環境マネジメントシステムを導入する
事業名	⑩-1 環境マネジメントシステムの構築と運用
目的	安曇野市がその事業実施の中で自主的に環境保全に関する取組を進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、達成に向けて取り組む。
目標	①三郷支所、堀金支所、明科支所、認定こども園および幼稚園における認証・登録 ②穂高支所、学校および図書館等における取り組み開始
担当課・係	環境課 環境政策係

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check	
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※	
実施及び運用継続 [定量-1]	通年	対象施設における取組の実施	通年	A	
認証・取得	環境活動レポート作成 [定量-1]	4月～6月	環境活動レポート作成	7/5	A
	内部監査	2月	内部監査研修会 内部監査	10/17 11/17	A
	審査申込および書類審査 [定量-1]	8月	中間審査申込	10/20	A
	現地審査 [定量-1]	11月	現地審査	2/7、8	A
	認証・登録 [定量-1]	2月	拡大認証・登録	3/16	A

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E/

■本年度の実績評価 ⑩-1 環境マネジメントシステムの構築と運用

	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
総合評価 (Check)	○効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度版環境活動レポートの作成 職員研修会の開催 新たに 34 施設が取り組みを開始した。 内部監査を計画した。 	<ul style="list-style-type: none"> 庁内インフォメーション、電子メールによる進捗確認
	○不十分だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> 一部学校で取り組みの詳細について、伝達されていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 依頼事項の進捗確認

■次年度への展望と課題など

	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
改善 (Action)	○改善策	
	<ul style="list-style-type: none"> 学校事務担当者へ直接周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価時における確認周知

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑪：自然エネルギー導入を進める
事業名	⑪-1 住宅用太陽エネルギー導入システムへの補助金交付事業
目的	自然エネルギーの活用による自然環境の保全。
目標	住宅用太陽光発電システム設置補助事業・・・補助金額 2,400 万円 住宅用太陽熱高度利用システム設置に対する補助金交付事業・・・補助金額 40 万円
担当課・係	環境課環境政策係

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価※
住宅用太陽光発電システム 設置補助事業 (1 キロワット当たり 3 万円の 補助金交付。限度額 12 万円。) 予算額 2,400 万円 目標設置件数 200 件 目標発電量※ 1,066,000 kWh 目標削減量※ 約 568.7t-CO ₂ (本年度設置分の延べ目標推計年間発 電量) (昨年度 1 件当たり平均 5.33kW×200 件) *(一社)太陽光発電協会による http://www.jpea.gr.jp/index.html [定量-2]	通年	・ 交付決定数 198 件 (新築 125 件、既築 73 件) 発電量 1,086,870 kWh 削減量 579.85 t-CO ₂ ※H28 年度 184 件 新築 116 件、既築 68 件	通年	A
住宅用太陽熱高度利用システム 設置に対する補助金交付事業 (システム設置費経費の 1/5 の 補助金交付。限度額 4 万円。) 予算額 40 万円 目標申請件数 10 件 目標集熱量※ 136,480MJ (本年度設置分の延べ目標年間有効集 熱量) (昨年度 1 件当たり平均 13,648MJ×10 件) *(一社)ソーラーシステム振興協会に による http://www.ssda.or.jp/energy/merit.html (試算条件) ・ 年間有効集熱量：年間傾斜面日射量 1,300,000kcal/m ² (5,442MJ/m ²) ・ 集熱効率：40% ・ 燃焼効率：80% ・ 1kcal=4.18605kJ ・ その他、(一社)ソーラーシステム振興 協会データブックによる [定量-2]	通年	・ 交付決定数 0 件 ※H28 年度 1 件	通年	E

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100⇒A 60～89⇒B 30～59⇒C 10～29⇒D 0～9⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑪-1 住宅用太陽エネルギー導入システムへの補助金交付事業

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○効果的だった取り組みや項目	
	・広報あづみの、チラシ配布による広報	・市HP等による広報
	○不十分だった取組や項目	
・実績報告の提出が遅い申請者が出ている。 ・システムの理解がされていないのではないか。	・実績報告書の提出が遅い申請者が出ている。 ・補助制度の周知不足	

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
	・引き続き市HPによる広報	・引き続き市HP・広報あづみの等による広報

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	①：自然エネルギー導入を進める
事業名	①-2 小水力発電の調査・検討・活用の取り組み
目的	農業水利施設を利用した水力発電により土地改良施設の電力需要に対処し、または、余剰電力を電力会社に売電することによって、土地改良施設の維持管理費を軽減する。
目標	管内土地改良区施設における小水力発電所の設計 新規発電所の建設計画の推進
担当課・係	耕地林務課 耕地担当

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
長野県中信平左岸土地改良区が計画する小水力発電事業を支援する。 [定量-1]	通年	小水力建設予定地の検討がなされている。	通年	A

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑪-2 小水力発電の調査・検討・活用の取り組み

	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
総合評価 (Check)	○効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ・中信平左岸土地改良区において、立地に向けた検討が図られている。 ・松本地域振興局と連携を図りながら事前説明をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中信平左岸土地改良区において、建設に向けた検討が継続的に図られている。 ・長野県土地改良施設エネルギー活用推進協議会が主催する導入に向けた研修会に参加した。
	○不十分だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

■次年度への展望と課題など

	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
改善 (Action)	○改善策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・松本地域振興局と連携を図りながら、新規建設地の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地改良区と連携を図りながら、引き続き立地に向けた取り組みを行います。 ・拾ヶ堰土地改良区で建設に向けた取組が計画されています。

平成 29 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	⑪：自然エネルギー導入を進める
事業名	⑪-4 地中熱の調査・検討・活用の取り組み
目的	環境共有資源である地下水・地盤環境の持続可能な利用を行うと共に地中熱利用の普及促進。
目標	新規導入事業の検討
担当課・係	関係各課

■平成 29 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
・公共施設への導入の検討と実証 (定量-1)	通年	認定子ども園への導入を検討したが、最終的に採用は見送る。	9 / 7	C

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C

定量-2：実施数量／目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E

定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

■本年度の実績評価 ⑪-4 地中熱の調査・検討・活用の取り組み

総合評価 (Check)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○効果的だった取り組みや項目	
	・施設の見込みと結果のとりまとめ	・特になし
	○不十分だった取り組みや項目、その要因	
	・保育所での不採用	・特になし

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	4月～9月（前期）	10月～3月（後期）
	○改善策	
	・市施設の建築計画に対する情報提供	・市施設の建築計画に対する情報提供

4 参考資料

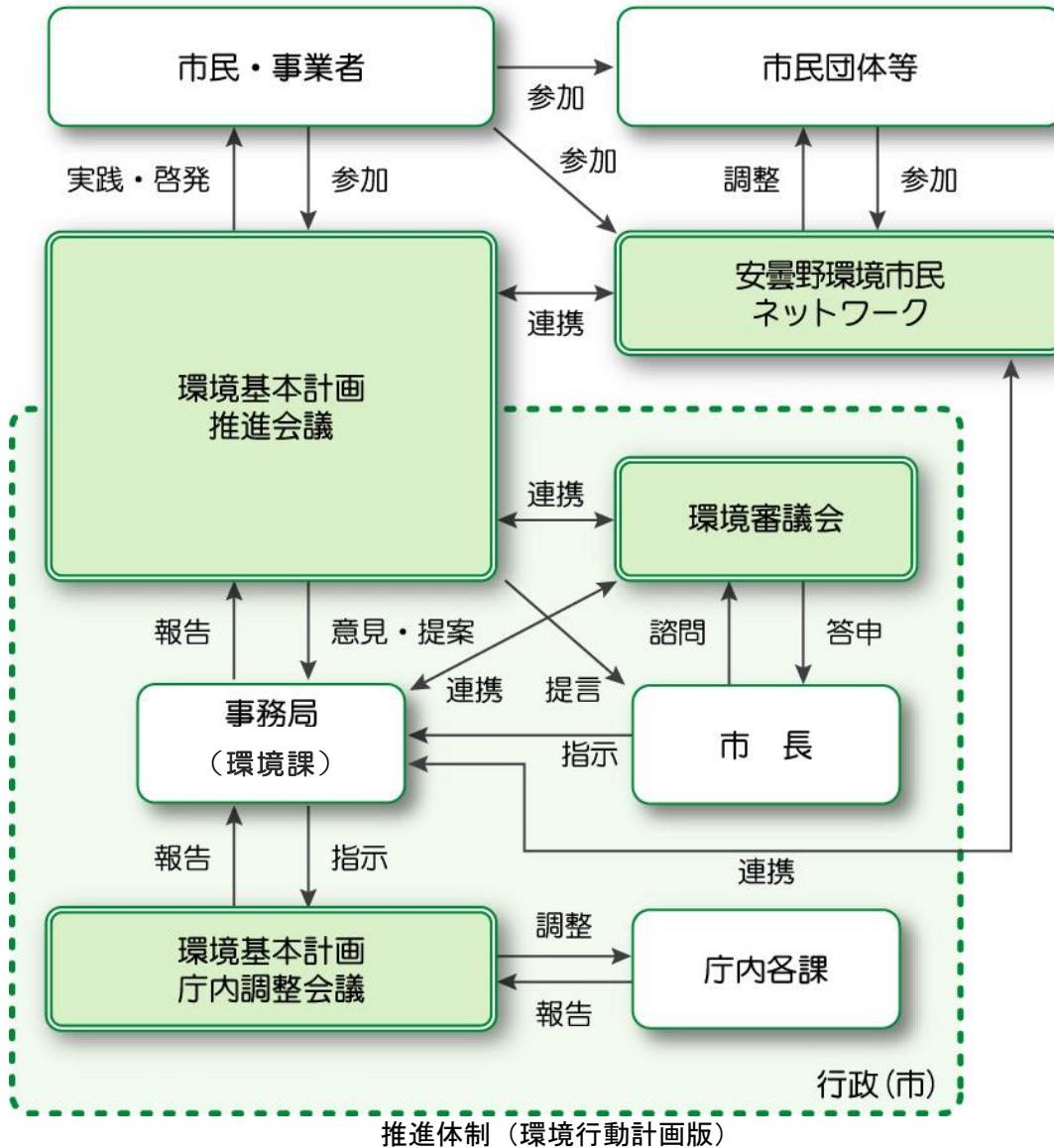
4.1 参考資料 1：環境基本計画の推進体制と進行管理

【推進体制】

環境基本計画は、市民・事業者・行政、その他関係する組織・団体など、さまざまな主体の各自の取り組みと、相互の連携や協働によって推進する必要があります。

環境基本計画を受けて策定した環境行動計画において定めた推進体制を、下の図に示しました。中核となるのは、市民・事業者・行政を含めた組織である「環境基本計画推進会議」であり、市全体としての計画の進捗状況の把握、課題点および対応策の検討などを行う機能です。このほか、行政内部の調整組織である「環境基本計画庁内調整会議」、専門的な見地から計画の達成・進捗状況を点検・評価する「環境審議会」のそれぞれが連携して計画の推進をはかります。

また、平成 21 年 9 月に発足した「安曇野環境市民ネットワーク」も、さまざまな市民団体などをとりまとめ、団体間の調整・連携を図るとともに、事業者・行政との協働の窓口として機能します。



【進行管理】

マネジメントの基本的なサイクルである PDCA サイクルに従い、毎年改善を図ります。

このサイクルは、毎年においては年間の取り組み予定をまとめた実施計画と取り組み結果をまとめた年次報告書が基本となります。

第1次行動計画では、環境基本計画推進会議と安曇野環境市民ネットワーク（以下「ネットワーク」という。）および環境基本計画庁内調整会議（以下「庁内調整会議」という。）との連携が十分ではありませんでした。そこで第2次行動計画では、この連携体制についても強化を図ります。PDCA サイクルの段階ごとの各主体の役割について、以下に示します。

① 計画する (Plan)

取り組みを企画し、関係者と調整の上、市民・事業者に対して広報・周知します。

- 推進会議
 - 庁内調整会議
- 相互に連携しながら取り組みを企画し、実施計画を作成して、情報を市民・事業者へ広報・周知します。
- ネットワーク：企画を共有し、協議の上、主体的に所属団体の計画に反映します。
 - 市民・市民団体等・事業者：取り組みの情報を入手します。

② 実行する (Do)

企画に基づいて実践・啓発を行い、市民・事業者の参加を図ります。

- 推進会議：庁内調整会議、ネットワークと連携して、実践・啓発を行います。
- 庁内調整会議：環境基本計画推進会議、ネットワークと連携して、実践・啓発を行います。（ネットワークへの説明など）
- ネットワーク：環境基本計画推進会議、庁内調整会議と連携して、啓発を行います。（所属団体への参加の呼びかけなど）
- 市民・市民団体等・事業者：プログラムに積極的に参加します。

③ 点検する・評価する (Check)

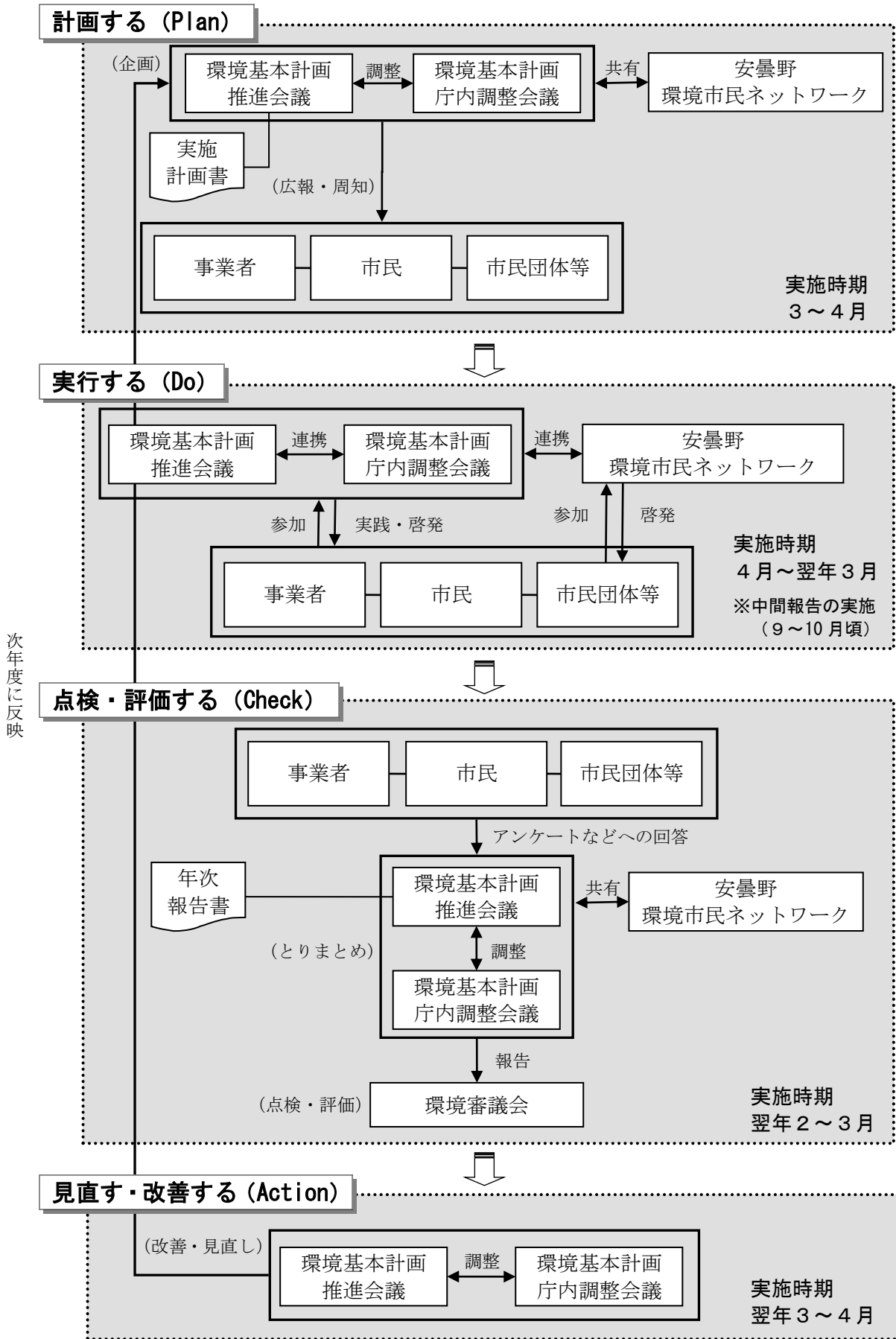
取り組みの結果を集約し、各会議に報告して、点検・評価を受けます。

- 推進会議
 - 庁内調整会議
- 相互に連携しながら取り組みの結果をとりまとめ、年次報告書を作成して環境審議会に報告します。
- ネットワーク：所属団体の活動結果をとりまとめ、環境基本計画推進会議、庁内調整会議と情報共有します。
 - 市民・市民団体等・事業者：取り組みに参加した結果を、アンケートへの回答などにより報告します。
 - 環境審議会：年次報告書について、点検・評価します。

④ 見直す・改善する (Action)

点検・評価の結果についてとりまとめ、改善点を次年度の計画へ反映します。

- 推進会議
 - 庁内調整会議
- 相互に調整を図りながら、改善点を整理し、次年度の計画へ反映します。



進行管理（環境行動計画版）

4.2 参考資料2：安曇野市環境基本計画推進会議委員 名簿

役職	氏名	所属など	区分	備考
会長	植松 晃岳	旧環境基本計画策定委員	市長推薦	
副会長	岡江 正	長野県建築士会 安曇野支部	環境関連団体 代表	
委員	川井 敏克	安曇野市商工会	事業団体代表	
	飛永 満 (~H29. 1. 16) 小坂 賢士 (H29. 1. 17~)	安曇野工業会		
	三村 照子	安曇野市農業委員会		
	青柳 聡	J Aあづみ		
	望月 静美	安曇野市消費者の会		
	太田 忠雄 (~H28. 11. 21) 樋口 嘉一 (H28. 11. 22~)	安曇野地球温暖化協議会	環境関連団体 代表	
	横田 耕太郎	安曇野環境市民ネットワーク		
	口村 孝			公募委員
	佐々木 俊之	一般財団法人 公園財団	市長推薦	
	丸山 潔	松本むしの会		
	腰原 正己	日本野鳥の会		
	重野 義博 (~H29. 5. 29) 石田 壽成 (H29. 5. 30~)	区長会		

(任期：平成28年4月1日～平成30年3月31日)



推進会議の様子（平成29年11月14日）

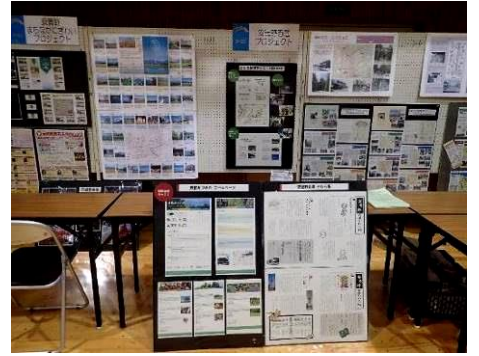
4.3 参考資料3：写真アルバム 安曇野環境フェア2017



開会式



メインアリーナ



屋内ブース（パネル展示）



屋内ブース（体験コーナー）



屋外ブース



リサイクル自転車の展示・販売



企画展 鈴木まもる 世界の鳥の巣と原画展



子どものための“水”おもしろプログラム



水道水ができるまで



ロマンを求めて潮沢



環境活動発表会



触れる地球



ホーボーズ・パペットシアター



積木ワークショップ



集合写真

4.4 参考資料4：安曇野環境フェア2017 出展団体一覧

分類	出展団体名	分類	出展団体名
環境全般	安曇野地球温暖化協議会	生活	NPO 法人 あづみ野風土舎
	キッセイ薬品工業(株)		あづみ野エフエム放送株式会社
	安曇野環境市民ネットワーク		安曇野市豊科郷土博物館・安曇野市新市立博物館準備室
	安曇野市環境基本計画推進会議		マックスバリュ長野株式会社
	安曇野市市民生活部環境課		安曇野建築三会
	信州環境フェア実行委員会	景観	三郷地域畜産悪臭対策協議会
	安曇野工業会		第36回全国都市緑化フェア実行委員会事務局
	株式会社 サクセン		安曇野まちなかにぎわいプロジェクト
	一般社団法人長野県産業環境保全協会		三角島ふるさとの森プロジェクト
自然	田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」		屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト
	環境省 松本自然環境事務所		NPO 法人安曇野ふるさとづくり応援団
	NPO 法人信州ツキノワグマ研究会		安曇野百選プロジェクト
	あづみ野建設労働組合		安曇野市建築住宅課
	さとふる。		エネルギー
	安曇野緑の会	(株)サンジュニア	
	NPO 法人 川の自然と文化研究所	京セラソーラーFC 松本	
	長野県烏川溪谷緑地 環境管理事務所	長野県電波適正利用推進員協議会	
	烏川溪谷緑地市民会議	(株)角藤 北信越本部 環境ソリューション室	
	特定非営利活動法人 森倶楽部 21	自然エネルギーネットまつもと	
信州水環境マップ・ネットワーク	太陽力(株)		
(株)BO-GA	中部原子力懇談会		
生活	安曇野市不用食器リサイクル実行委員会	日本チェルノブイリ連帯基金・チームめとば	
	(株)ちくま精機	アルファ機械産業(株)	
	一般社団法人長野県環境保全協会	かえる 311	
	安曇野市消費者の会	環境学習	長野トヨタ自動車株式会社 安曇店
	生活協同組合コープながの		エクセラン高等学校環境科学コース
	エコグラウンド		マイ箸づくりサポートボランティア
	生活クラブ生活協同組合		信州大学環境学生委員会
	安曇野市上下水道部下水道課、犀川安曇野流域下水道事務所、(公財)長野県下水道公社安曇野事務所		南安曇農業高等学校
	安曇野市 市民生活部 廃棄物対策課		豊科南中学校・穂高北小学校

4.5 参考資料5：安曇野環境市民ネットワーク 活動アンケート結果

ネットワーク登録団体間や、環境基本計画推進会議との情報共有を目的として、登録団体の平成29年度における活動状況についてアンケートを依頼したところ、全28団体のうち、12団体より回答いただきました。

報告を受けた団体一覧

活動分野	団体名
環境	安曇野工業会
生活	安曇野市消費者の会
地球温暖化	安曇野地球温暖化協議会
環境	NPO法人 あづみ野風土舎
景観	潮沢ロマンの会
自然	烏川溪谷緑地市民会議
自然	NPO法人 川の自然と文化研究所
自然、生活	生活協同組合コープながの
環境	(公財) 長野県長寿社会開発研究センター 松本地区賛助会 安曇野地域会
地球温暖化	マイ箸づくりサポートボランティア
自然、景観	NPO法人 森倶楽部 2 1
自然	野生生物資料情報室

(50音順)

アンケート回答がありました団体の年間活動記録について以下に掲載します。

団体名	安曇野工業会
記入者名	藤沢美幸

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
2月23日	環境対策研修会	ビレッジ安曇野	10人

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : _____
理由 : _____

団体名	安曇野市消費者の会
記入者名	丸山 千里

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
6月18日	あやめまつり	龍門淵公園	7人
7月3日	自然観察会ホームタウン明科	明科中学校	2人
8月5日	石けん作り一般研修	町づくり会館	12人
9月5日	豊かな環境づくり地域会議 自然観察会	乗鞍高原	1人
10月7～8日	安曇野環境フェア2017	堀金総合体育館	27人
10月18日	お水返し	穂高神社奥社 明神池	4人
11月11日	星座観察会	長峰山天平の森	11人
30年2月5日	豊かな環境づくり地域会議 自然保護合同研修会 ライチョウ保護環境保全を考える	松本合同庁舎	5人
2月19日～ 3月2日	マイバックコンテスト作品展示	松本合同庁舎	3人
3月7～16日	消費者の会活動パネル展示	松本合同庁舎	

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 安曇野環境フェア2017

理 由 : 行政、市民団体、企業が一堂に集まり、大人も子どもも一緒に楽しんだり、知識を得る催しでよかった。

団体名	安曇野地球温暖化協議会
記入者名	樋口 嘉一

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月14日	エコアクション21取得支援	H社	1人
5月10日	地球温暖化対策・自然エネルギー研究会(市町村研究会)に参加	松本合同庁舎	—
5月16日	松本地域/有明土地改良区の「宮城小水力発電所」を見学	安曇野市穂高有明宮城	8人
6月3日	安曇野市が開催する「緑のカーテン講座」にて「私たちの暮らしと地球温暖化、緑のカーテンの効用、及びクールチョイス!節エネガイド」について講演	安曇野市三郷公民館	22人
6月21日	エコアクション21セミナーに参加	ソフト開発センター	—
6月23日	長野県地球温暖化防止活動推進員研修会に参加	長野県庁	—
7月20日	安曇野市と本年度環境講座について打ち合わせ	安曇野市本庁舎	6人
7月25日	長野県地球温暖化防止活動推進員研修会に参加及び推進員活動に関する講演	松本合同庁舎	—
9月4日	安曇野市立明科中学校のホームタウン明科・自然観察講座にて「地球温暖化最新情報～未来の地球と私たちの暮らし～」を講演、その後「みんなで考えよう～学校と家庭でのCOOL CHOICE/ワークショップ」を実施	安曇野市立明科中学校	15人
10月7～8日	「安曇野環境フェア2017」に出展	堀金体育館	1700人 (実行委員会報告)

10月8日	「安曇野環境フェア2017」の環境活動発表会で「うちエコ診断で地球温暖化防止」を講演	堀金体育館	25人
10月26日	安曇野市環境講座に出席	安曇野市本庁舎	—
11月27日	「自然エネルギーネット松本」の学習会に参加	松本市市民活動サポートセンター	12人
1月22日	長野県地球温暖化防止活動推進員研修会に参加	松本商工会館	—
2月19日	エコアクション21取得報告作成指導	H社	2人
2月23日	「地球温暖化の現状と対応・適応について」の研修会を開催。	ビレッジ安曇野	12人
3月24日	「くるりん広場交流会」にて「地球温暖化防止」の展示とステージ発表	安曇野市市民活動サポートセンター	50人

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名：ホームタウン明科「自然観察講座」（安曇野市立明科中学校）

／「地球温暖化最新情報～未来の地球と私達の暮らし～」

理由：「地球温暖化防止」の講座が、学校の「環境教育」の一環になったと考える。
（講座に際し「安曇野市教育会」の「環境教育委員会」から視察があった）

団体名	NPO法人 あづみ野風土舎
記入者名	磯野 康子

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
5月20日	緑のカーテン広げよう講座	研政ホール	100人
6月3日	環カフェ「緑のカーテン」講座	三郷公民館	4人
6月16日	オーシャンブルー植栽指導	国営公園	7人
11月18日	オーシャンブルー鉢上げ	国営公園	8人
10月7～8日	安曇野市環境フェア 出展	堀金総合体育館	15人
4月24日～ 11月18日	柏矢町三角地除草・植栽（6回）		35人

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 「緑のカーテン広げよう」講座

理 由 : この講座も9年目になり、市内にとどまらず近隣市町村からの受講者が増えてきている。「緑のカーテン」は環境に優しいだけでなく、育てる人の心に楽しさやゆとりを育んでいる。講座終了後も、年間を通して様々な情報問合せが寄せられている。

団体名	潮沢ロマンの会
記入者名	事務局 環境課

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月12日	潮沢ロマンの会 学習会	東平庵	20人程度
5月10日	潮沢ロマンの会	東平庵	20人程度
6月14日	潮沢ロマンの会	明科公民館	20人程度
6月20日	歩いて楽しいまちづくりプロジェクト講座 廃線敷にD51の走った時代	明科公民館	50人程度
6月28日	全体会議	明科公民館	20人程度
7月19日	潮沢ロマンの会	明科公民館	20人程度
8月9日	潮沢ロマンの会	明科公民館	20人程度
8月23日	全体会議	明科公民館	20人程度
9月6日	潮沢ロマンの会	明科公民館	20人程度
9月20日	潮沢ロマンの会	明科公民館	20人程度
10月7日	歩いて楽しいまちづくりプロジェクト講座 ロマンを求めて潮沢 潮沢のいいところをご紹介	堀金総合体育館	50人程度
10月18日	潮沢ロマンの会	明科公民館	
11月8日	潮沢ロマンの会 名九鬼集落現地調査	名九鬼集落	40人
12月13日	潮沢ロマンの会 食事会、会議	明科公民館	20人程度
1月17日	全体会議	明科公民館	20人程度
2月13日	潮沢ロマンの会	明科公民館	20人程度
2月21日	全体会議	明科公民館	20人程度

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名：廃線敷にD51が走った時代

理由：篠ノ井線が明科～西条間 廃線になり、無いこと
観光コースになっていること
明治時代の歴史が残っていること

団体名	烏川溪谷緑地市民会議
記入者名	佐々木 俊之

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月15日	第100回からすの学校 カラスほどカワイイ鳥はいない!?	ほりでーユー四季の郷	55人
4月22日	第101回からすの学校 オオルリ観察会	烏川溪谷緑地 水辺エリア	28人
4月23日	烏川溪谷緑地市民会議主催 カタクリ観察会	烏川溪谷緑地 森林エリア	23人
4月29日	第102回からすの学校 オオルリ観察会	烏川溪谷緑地 水辺エリア	16人
5月20日	第103回からすの学校 林道からながめる松本盆地 ～烏川扇状地の生い立ちと地形観察～	烏川溪谷緑地 水辺エリア・林道小水沢線沿線	21人
6月3日	烏川溪谷緑地市民会議主催 森林エリア 植物観察会	烏川溪谷緑地 森林エリア	19人
6月17日	第104回からすの学校 スゲ入門観察会	烏川溪谷緑地 水辺エリア	13人
6月24日	第105回からすの学校 コケ類観察会～春～	烏川溪谷緑地 水辺エリア	23人
8月11日	第106回からすの学校 ニホンザル学習会	烏川溪谷緑地 森林エリア	19人
8月12日	昆虫の目から見た棲みよい森づくり ～蝶を中心とした昆虫観察～	烏川溪谷緑地 森林エリア	20人
8月12日	夏休みクラフト教室 テレイドスコープをつくろう	烏川溪谷緑地 水辺エリア	2人
8月13日	夏休みクラフト教室 テレイドスコープをつくろう	烏川溪谷緑地 水辺エリア	5人
9月2日	第107回からすの学校 植物の楽しみ方と写真教室	烏川溪谷緑地 水辺エリア	19人
9月16日	第108回からすの学校 菌類 きのこの学習会	烏川溪谷緑地 森林エリア	28人
9月30日	ノルディック・ウオーク あづみの公園⇄烏川溪谷緑地	烏川溪谷緑地 水辺エリア及び	10人

		国営アルプスあづみの公園 堀金・穂高地区	
10月1日	ノルディック・ウオーク あづみの公園⇄烏川渓谷緑地	烏川渓谷緑地 水辺エリア及び 国営アルプスあづみの公園 堀金・穂高地区	6人
10月28日	第109回からすの学校 森林療法ワークショップ	烏川渓谷緑地 森林エリア	12人
12月18日	第110回からすの学校 冬芽でわかる樹木観察	烏川渓谷緑地 水辺エリア	14人
1月14日	烏川渓谷緑地市民会議主催 斧入れの儀 ヒノキ伐倒体験	烏川渓谷緑地 森林エリア	23人
1月20日	第111回からすの学校 長野県のレッドデータ植物	烏川渓谷緑地 水辺エリア	28人
2月3日	第112回からすの学校 アニマルトラッキング	烏川渓谷緑地 水辺エリア	23人
2月10日	スノーシュー体験	烏川渓谷緑地 水辺エリア	16人
3月17日	しいたけ原木コマ打ち体験と 花炭づくり	烏川渓谷緑地 水辺エリア	40人

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 : きのこ学習会～菌類を学ぶ～

理 由 : 食べられる？食べられない？毒？と言った観点でとらえられがちなキノコの世界に一步踏み込んで、研究者目線でのキノコの観察学習会を行った。
とても身近な存在でありながら、様々な環境に多様な種類のキノコが生育し、自然環境の一端を担っているキノコについて、多様な形態や生活史など、普段私たちが良く知るキノコとは異なる菌類の世界について学ぶことができた。

団体名	NPO法人 川の自然と文化研究所
記入者名	吉田 利男

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
6月7日	田川小学校2・3年生「川の生きもの観察会」	田川小学校 田川・奈良井川	30人 30人
7月1日	コープ長野「ハイケボタル観察会」	明科せせらぎ サイエンス	30人
7月5日	会田小学校「教員対象 川の生きもの調査」	会田小学校 会田川	20人

7月8日	第12回「川の自然と文化」講演会	穂高公民館	60人
7月23日	コープ長野「犀川の生きもの観察会」	明科せせらぎサイエンス、犀川	20人
7月29日	岩原のヘイケボタル観察会	堀金岩原公民館	30人
9月26日	「温暖化と生きもの」講演会	明科公民館	40人
10月1日	田尻「ホタル保全の会」	堀金田尻神社	15人
10月7、8日	安曇野市環境フェア2017(水生生物、古写真展示)	堀金体育館	200～300人
10月22日	下鳥羽公民館「田んぼ・セギの生きもの観察会」	下鳥羽公民館	30人
11月3、4日	松本市ぼくらの楽校2017(水生生物・ポスター展示)	松本市市民活動サポートセンター	100～150人

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 : 安曇野環境フェア2017

理由 : 水槽を持ち込み、身近な川で捕獲した水生生物（魚類、底生動物、水生植物）を、実際に見て触れることができるようにした。特に子どもたちの中には、これまで見たり触ったことがない生き物の登場に興奮して、ずっと水槽に張り付いている子も見られた。
また、子供と一緒に来た親は、昔に見た生き物を懐かしがったり、今の川の様子を話してくれた。生き物の名前の由来やどのような場所にすむのかをお話すると、大変興味を持っていただいた。

団体名	生活協同組合 コープながの
記入者名	召田 洋一

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月23日	きのこの駒打ち 森の里親契約による	長峰山	49人
5月6日	米作り体験（田植え）	堀金の田んぼ	50人
5月21日	長峰山トレッキング 森の里親契約による	長峰山	18人
6月11日	刃物研ぎ講座 森の里親契約による	長峰山	28人
6月17日	田んぼの生き物調査	堀金の田んぼ	43人

7月1日	ホテル観察会	せせらぎ	73人
8月1日	親子自然体験教室	あづみの公園	30人
9月10日	米作り体験（稲刈り）	堀金の田んぼ	28人
9月23日	米作り体験（脱穀）	堀金の田んぼ	18人
10月1日	ロケットストーブ作り 森の里親契約による	長峰山	20人
10月7、8日	安曇野環境フェア	堀金体育館	7人
10月15日	米作り体験（新米料理教室）	堀金公民館	27人
12月9日	米作り体験（しめ飾り作り講座）	あづみの公園	16人

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名：5/21トレッキング

理由：近くにこんないい場所があるとは思わなかった。景色がとても良かった。松枯れの惨状を目の当たりにし驚いた。等の意見がありました。

団体名	(公財)長野県長寿社会開発研究センター 松本地区賛助会 安曇野地域会
記入者名	小松 松雄

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
5月20日	緑のカーテン（オーシャンブルー）	碌山公園研政ホール	18人
9月6日	下水道処理場アクアピア安曇野見学	アクアピア安曇野	21人
12月18日	しめ縄飾り作り	穂高会館	20人

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名：下水道処理場アクアピア安曇野見学

理由：会員の半数に近い人は県外・市外からの編入者が多いなか、自分が住んでいる地区の施設がどのような働きがあるのか分からないので大変参考になった。次年度はごみ焼却場見学の要望が強いので計画したい。

団体名	マイ箸づくりサポートボランティア
記入者名	矢口 今朝雄

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
7月3日	ホームタウン明科 「自然観察講座」	明科中学校	8人
8月22日	安曇野市朗人大学 「趣味講座」	豊科老人センター	19人
10月7～8日	安曇野環境フェア	堀金総合体育館	40人
2月3日	ボランティア連合会 松本市大会	なんなん広場	100人

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 : ホームタウン明科「自然観察講座」

理由 : 環境問題が深刻であると理解できた。

端材等有効活用でくることが理解できた。

団体名	特定非営利活動法人 森倶楽部 21
記入者名	森 芳昭

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月23日	森林の里親事業 コープながの キノコの駒打ちとキノコ汁	長峰山	70人
5月15日	明科高校1年総合学習「明科の自然と暮らしを訪ねて」事前学習	明科高校	160人
5月21日	森林の里親事業 コープながの 長峰山トレッキング	長峰山	34人
6月2日	明科高校1年「長峰山遠足」	長峰山	160人
6月11日	森林の里親促進事業 刃物砥ぎと下草刈り・葉っぱスタンプ	長峰山	36人
6月19日	明科中「ホームタウン明科・総合学習の時間」	長峰山	17人
7月9日	自然観察 in 長峰山	長峰山	17人
7月13日	明北小学校葉っぱスタンプ	長峰山	39人
8月20日	草木染め体験	長峰山	8人

10月1日	森林の里親事業 コープながの ロケットストーブと 万華鏡の製作	長峰山	26人
10月7～8日	安曇野環境フェア	堀金体育館	160人
10月29日	長峰山フォーラム12出前版	三郷・地球宿	11人
11月3～4日	ぼくらの学校	松本市市民サポー トセンター	70人
11月12日	長峰山フォーラム12	長峰山	22人
2月25日	長峰山活動報告会	安曇野市役所	50人

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名：自然観察 in 長峰山

理由：参加者の人数ではなく、思い入れの深さが大事だと痛感した。我々のフ
ィールドにわざわざ来てくださり、一緒に汗を流し、感動することが何より
も励みとなる。

団体名	野生生物資料情報室
記入者名	植松 晃岳

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月22日	オオルリ観察会 ^o （座学と観察会）	烏川溪谷緑地	30人
6月17、18日	ライチョウ観察会（座学と観察会）	燕岳・燕山荘	10人
6月24、25日	ライチョウ観察会（座学と観察会）	燕岳・燕山荘	15人
7月1日	安曇野の自然まるわかり観察会	三角島	30人
2月3日	動物の足跡観察会 ^o （座学と観察会）	烏川溪谷緑地	30人
2月10日	鳥の道を越えて（映画とシンポジウム）	松本市教育文 化センター	80人

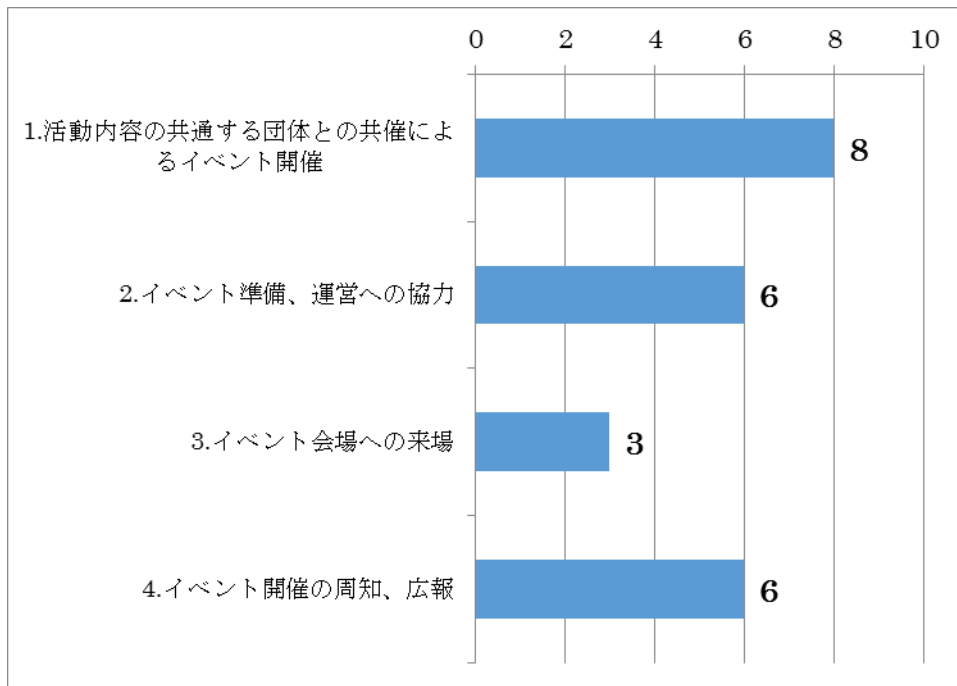
特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名：ライチョウ観察会

理由：多くの人の関心があった

【問】貴団体がイベント・講座を実施する際、他のネットワーク登録団体や環境基本計画推進会議委員にどのようなことを期待しますか。該当する番号を回答欄に記入してください。（複数回答可）

1. イベント開催の周知、広報
2. イベント会場への来場
3. イベント準備、運営への協力
4. 活動内容の共通する団体との共催によるイベント開催



【問】その他、今後環境市民ネットワークとして取り組んでみたい活動がありましたらご自由にご記入ください。（例：特定外来生物（アレチウリなど）の駆除活動）

- ・あやめまつりの一環として新緑ウォーキング（明科廃線敷）がありますが、アレチウリが目につきました。駆除活動を同時開催してもよいのではないのでしょうか。
- ・今後も安曇野環境市民ネットワークを通して「地球温暖化」とその「緩和策」や「適応策」について啓発に努めていきたい。
- ・安曇野の水辺の自然の現状と課題に関する講演会（講座）及び親子観察会
- ・人気の「池の水全部抜く」というような企画はいかがでしょうか。
- ・安曇野市で困っていることで、私達高齢者ができることがあれば開示してください。
- ・それぞれが忙しいので情報交換をメインとした方がよい。